



# マリレスキュー ジャーナル

Vol 110 No1  
2018年 1月号

連載 マリンレスキュー紀行  
海の安全安心を支える  
ボランティアたちの群像

茨城県水難救済会 大洗支部救難所/久慈支部救難所

全国52,000人の“海の救難ボランティア”の活動を支えます。

海難だ！  
いざ出動！

好きです海が  
守りますあなたを  
青い羽根

MRJ 海の救難ボランティア  
公益社団法人 日本水難救済会  
ホームページ: <http://www.mrj.or.jp>

後援:国土交通省、海上保安庁、総務省消防庁、水産庁

## 募金の方法

### 口座振込みによる募金

#### 郵便局

口座番号:00120-4-8400  
加入者名:公益社団法人 日本水難救済会

#### 銀行

三井住友銀行日本橋東支店  
口座番号:(普)7468319  
加入者名:公益社団法人 日本水難救済会  
青い羽根募金口

### インターネット募金



- ホームページから以下の方法で募金ができます。
- クレジットカードはMasterCard、VISA、JCB、AMEXがご利用できます。
- NTTコミュニケーションズが提供するネット専用電子マネー「ちょコムeマネー」がご利用できます。

●お問い合わせ先 ☎0120-01-5587

募金フリーダイヤルでお申し出ください。振込料無料の専用郵便振替用紙をお送りします。



公益社団法人日本水難救済会は、会員の皆様からの会費や青い羽根募金のほか、公益財団法人日本財団をはじめ、公益財団法人日本海事センター、海運・水産関係団体等の助成金、補助金をもって事業が運営されています。



## 公益社団法人日本水難救済会

〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目5番地 海事センタービル7階  
TEL:03-3222-8066 FAX:03-3222-8067  
<http://www.mrj.or.jp> E-mail [v1161@mrj.or.jp](mailto:v1161@mrj.or.jp)



## 青い羽根募金 活動レポート 2017

レスキュー41～  
地方水難救済会の現状  
シリーズ⑦

MRJフォーラム  
(公社)日本水難救済会 第2回通常理事会を開催

政府広報  
「明治150年」関連施策への取り組みの推進について!



公益社団法人 日本水難救済会



## 名誉総裁 年頭挨拶



新年あけましておめでとうございます。

本年も、全国の救難所員の皆様が、  
海上における、人命、船舶の救済に力を尽くし、  
海上産業の発展と海上交通の安全確保に  
寄与されますとともに、  
国民の皆様から益々信頼され、  
発展を遂げられますことを願っております。

平成30年1月1日

公益社団法人 日本水難救済会  
名誉総裁 憲仁親王妃久子

## 年頭挨拶



公益社団法人 日本水難救済会

会長 相原 力

平成30年の年頭にあたり  
海上の安全と安心のための  
皆様のご活躍を祈念申し上げます。

平成30年の年頭にあたり、全国の地方水難救済会をはじめ各地の救難所・支所の救難所員とその活動を支えておられるご家族の皆様、洋上救急や青い羽根募金活動に携わっていただいている皆様に、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

全国の救難所員等の皆様におかれましては、昼夜を問わず海難救助出動等にご尽力をいただいております。関係者の皆様に心から敬意を表します。

海の現場での海難救助活動は荒天下あるいは夜間での作業を余儀なくされ、救助活動をされる救難所員の方々に危険が迫ることが多く、そのご苦労は大変なことと思います。日本水難救済会は明治22年の創設以来、平成29年12月末までに救難所員の皆様のご活躍により、全国で累計196,857人の尊い人命を救助してきた実績を誇っており、昨年は12月末までに全国で264件の海難に対応し、265名、105隻の船舶を救助し、沿岸における海難救助に多大な成果を上げることができました。

また、昨年6月に開催された名誉総裁表彰式典において、平成28年8月21日に下田市須崎の磯場で釣り3名が海中転落し、救助出動の要請を受けた下田救難所の救助員6名が直ちに救助船に乗船して、台風9号の影響により磯波が高く多数の岩礁が存在する危険な海域において、救命胴衣を未着用で漂流中の3名を発見し、巧みな操船により救助員が一致協力して全員を船内に引き上げ救助するとともに、意識を失って心肺停止状態になった1名については心肺蘇生措置を施し、救助した他の2名とともに消防の救急隊に引き継いだ海難救助事案につきまして、名誉総裁表彰を受章されました。

これも偏に、これまで水難救済に携わられてきた皆様の崇高なボランティア精神に依るものであり、深く敬意を表するものです。

洋上救急につきましては、昨年は27件の出動があり、また、洋上救急制度創設以来、平成29年末までに延べ876件の出動が行われております。洋上救急制度は海上を活動の場とする船員やそのご家族の安心をもたらすものとして、関係の皆様からも高く評価されております。今後とも一層の充実を図って参る所存でございますので、さらなるご支援をよろしくお願いいたします。

青い羽根募金につきましては、昨年も海上保安庁をはじめ国土交通省、消防庁、水産庁、防衛省などの国の機関のほか、各種企業や海洋少年団などのご協力をいただき、青い羽根募金活動はもとより、青い羽根募金支援自販機の設置箇所の増にも取り組んで頂きましたことにより、多大な成果がございました。関係の皆様にご挨拶申し上げますとともに、更なる拡大を期待しておりますので皆様のご協力をよろしくお願い致します。

日本水難救済会は、約52,000人のボランティア救助員の活動の支援のため、本年も的確な運営を推進していく所存でございますので、よろしくお願い申し上げます。

年頭から厳しい環境の中、全国各地で活動している救難所員をはじめ関係者の皆様のご健勝とますますのご発展をご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

# 年頭挨拶



海上保安庁長官  
なかじま なおし  
**中島 敏**

平成30年の年頭にあたり、  
謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

公益社団法人日本水難救済会におかれましては、明治22年の設立以来、128年間の長きにわたり代々受け継がれてこられた崇高なボランティア精神のもと、これまでに約20万人の尊い人命と約4万隻の船舶を救助するという輝かしい実績を築き上げてこられました。これは、生業が在る中、尊い人命の救助のため、献身的に活動されている全国各地の約5万2千人に上る救難所員の皆様の御活躍によるものであり、心から敬意を表します。

さて、昨年海上保安庁を取り巻く人命救助に関する状況を振り返りますと、2月の鹿児島県諏訪之瀬島沖タンカー座礁事故において乗組員18名全員を無事救助した事案をはじめとする様々な海難に対応いたしました。また、7月の九州北部豪雨災害への対応や、9月のメキシコにおける地震被害に対する国際緊急援助隊の派遣といった陸上災害への救助活動が社会的に注目された1年でした。

我が国周辺海域における海難の発生状況を見ますと、毎年1,000人以上の死亡・行方不明者が発生し、2,000隻以上の船舶事故が発生しているのが現状であり、海上保安庁では、巡視船艇・航空機の整備・高機能化とともに、ヘリコプターからの降下、潜水、救急救命といった技術力の向上など、救助・救急体制の充実強化に鋭意取り組んでいるところです。

しかしながら、広大な我が国沿岸域において発生する船舶海難や人身事故への迅速かつ的確な対応、また、昨今本邦への寄港が急増している大型クルーズ船の万一の事故への対応には、海上保安庁などの公的救助機関の勢力のみでは十分とは言えず、民間救助

機関との連携が必要不可欠となります。全国1,300箇所余りに配置され、地域に密着した活動を行っている水難救済会関係者の皆様の御活動、更には、地方自治体と地方水難救済会との協定に基づく、地震・津波等による災害発生時の御対応については、海上保安庁において非常に心強いものであり、今後も合同訓練などを実施し、緊密な連携を図っていきたく思っております。

また、洋上救急事業におきましては、昭和60年の運用開始以来、協力医療機関の御協力のもと、医師・看護師の方々には日夜を問わず、巡視船艇や航空機に同乗のうえ、献身的に往診などに当たっていただき、日本の周辺海域を航行する船舶に乗り組む日本人船員に限らず、外国人船員も含めて、これまでに900人以上の傷病者が救助されております。この事業は、海上の傷病者を救う世界唯一のシステムであり、日本船舶のみならず、外国船舶からも高い評価を得ており、本事業の一翼を担う海上保安庁といたしましても、緊密に連携し、迅速な救急活動の実施に努めていく所存でありますので、引き続き関係者の皆様の御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、全国各地において、日夜海難救助や洋上救急に献身的に御尽力されている関係者の皆様の御健勝と、公益社団法人日本水難救済会の益々の御発展を祈念いたしまして、私の新年の挨拶とさせていただきます。

# 年頭挨拶



公益社団法人 日本水難救済会  
むかい だまさゆき  
理事長 **向田 昌幸**

「戌」の年を迎えて

が設立されており、それらの傘下にある救難所等が全国津々浦々に計約1,300か所設置され、それらを拠点に総勢約52,000名の民間ボランティア救助員の皆さんが昼夜を問わず献身的な捜索救助活動に勤しんでおられます。そして、明治以来これまでの救助実績は、約196,900名の人命と約4万隻近くの船舶を救助しており、最近の3ヶ年の年平均でも、322名の人命と128隻の船舶を救助するという素晴らしい実績を誇っています。

一方、本会の運営する洋上での救急医療活動でも輝かしい成果を挙げています。1985(昭和60)年10月に正式に制度化されて以来これまでの32年間における出動実績は、900名近い重篤な傷病者救急救命のために、全国147の協力医療機関の中から延べ1,600名以上の医師・看護師の皆さんが慣れない洋上に、しかも時として荒天暗夜を衝いて出動されています。その内訳を見ますと、最近では外国籍の船舶や船員の割合が増加傾向にあって、全体の4割を超える状況になっています。その分、国籍の如何を問わず、世界で唯一のこの洋上救急制度に対する高い評価と厚い信頼が寄せられています。

以上のように、本会の基幹事業である沿岸海域での水難救済活動と遥か洋上での救急医療活動の双方において、これまでの長い歴史と伝統に恥じることなく、素晴らしい実績を積み重ね続けていることを誠に光栄かつ誇らしく思っていますが、それも、現場で献身的に活躍されている救助員と医師・看護師の皆さんはもとより、日頃から惜しみないご支援を賜わっている多くの関係各位のお陰であり、改めて心より感謝申し上げる次第です。

ところで、本年の干支は「戌戌(つちのえいぬ)」です。戌の字は「茂」に通じて「植物の成長が絶頂期にある」と、また「戌(いぬ)」は「滅」(めつ「ほろぶ」)で「草木が枯れる状態を表す」とされ、戌と戌は同じ気が重なりとその気は盛んになり、その結果が良いときはますます良く、逆に悪いときはますます悪くなる比和の関係にあるのだそうです。そうだとしますと、見事に花開くのか、それとも枯れてしまうのか、まさに本年は本会にとって正念場ということになりますが、何ともしみごとに花を咲かせ開かせ実り多い年にしたいと願っております。皆さま方におかれましても、日常的な水難救助活動や洋上救急医療活動はもとより、大規模な災害への備えにも万全を期して頂きながら、安全に大輪の花の咲く実り多い年となりますよう心より祈念申し上げ、年頭のごあいさつと致します。

新年明けまして おめでとうございます。

日頃から昼夜を分かたず、沿岸海域での水難救済活動や遥か洋上での救急医療活動に献身的に勤しんでおられる全国の地方水難救済会及び救急医療機関の関係各位をはじめ、いつも惜しみないご指導ご支援を賜わっている国や地方自治体の関係機関並びに海事・漁業・医療等の関係団体の皆さまに心より新春のお慶びを申し上げます。

さて、周囲を海に囲まれたわが国では、沿岸海域における船舶海難や海浜事故が後を絶ちません。今日では、海上保安庁や警察・消防に代表される国や地方自治体による公的な海の救難体制もかなり充実して参りましたが、それでも小さな島国とはいえ、わが国は世界屈指の長大な海岸線を有するだけに、公的な救難勢力だけでは迅速かつ的確に救助の手を差し延べることは困難です。まして、戦後間もなく海上保安庁が誕生するまでの公的な海の救難勢力而言えば、主要な港湾水域では水上警察が、それ以外の外洋に面した沿岸海域では海軍が掛け持ちするという状況でしたから、今とは比較にならないほど貧弱な体制だったことは容易に想像できます。そこで、それを補完する役割を託されたのが本会の前身である大日本帝国水難救済会でした。同会は、1889(明治22)年11月にわが国初の海の民間救難ボランティア組織として誕生しましたが、それから今年で129年目を迎えることになります。

公的な海の救難体制を補完するという重要な社会的使命は今でも変わっておりませんが、ここ数年来、全国各地で地震・津波・台風・大雨洪水等による大規模な自然災害が相次いでいるほか、諸外国では大型客船の海難やテロ等が散発していますので、わが国としても常に様々な形の大規模災害への備えに万全を期さねばならないという観点からしますと、本会及び地方水難救済会の社会的重要性はむしろ従前にも増して益々大きくなっているものと認識しております。

現在、全国の沿岸道府県には40の地方水難救済組織

- 01 名誉総裁 年頭挨拶
- 02 公益社団法人 日本水難救済会会長 年頭挨拶
- 03 海上保安庁長官 年頭挨拶
- 04 公益社団法人 日本水難救済会理事長 年頭挨拶
- 06 連載 マリンレスキュー紀行  
海の安全安心を支えるボランティアたちの群像  
茨城県水難救済会 大洗支部救難所 / 久慈支部救難所
- 12 全国地方救難所のお膝元訪問  
ニッポン港グルメ食遊記【大洗支部救難所】
- 13 青い羽根募金活動レポート2017  
平成29年度「青い羽根募金」の状況 / 各地の「青い羽根募金支援自販機」設置活動 / 青い羽根募金の使い道は? / 生命(いのち)を繋ぐ環、ライフリング・プロジェクト / 「青い羽根募金」にご協力いただいた企業、団体等に感謝状を贈呈
- 17 水難救済思想の普及活動レポート
- 20 マリンレスキューレポート  
Part1 救難所NEWS 海難救助訓練ほか / 水難救助等活動報告 / 新設救難所の紹介  
Part2 洋上救急NEWS 洋上救急活動報告 / 地方支部の活動状況等 / 洋上救急慣熟訓練
- 33 レスキュー41～地方水難救済会の現状(シリーズ⑦)  
特定非営利活動法人神奈川水難救済会 / 鹿児島水難救済会
- 37 MRJ フォーラム  
(公社)日本水難救済会 平成29年度第2回理事会開催 / 2017年度JICA課題別研修「救難・環境防災」研修で本会職員による講義  
投稿:熊本地震から復興～新事務所落成・「青い羽根募金支援自販機」新設～
- 39 MRJ 互助会通信
- 42 平成29年における日本水難救済会会長表彰受章者一覧
- 45 おしらせ  
〈政府広報〉「明治150年」関連施策への取り組みの推進について
- 46 編集後記

表紙:茨城県水難救済会 大洗支部救難所



連載 マリンレスキュー紀行

## 海の安全安心を支える ボランティアたちの群像

茨城県水難救済会 大洗支部救難所 / 久慈支部救難所

▲漁から大洗港に戻ってくる漁船。背後には通称「浮きドックケーソン」と呼ばれるフローティングドックが

### 太平洋とともに生きる男たちの 誇りと使命感

取材協力:茨城県水難救済会 大洗支部救難所 / 久慈支部救難所



太平洋に面し、ほぼ南北に伸びやかな曲線を描く茨城県の海岸線。延長約190kmの沖合いでは温暖な黒潮と寒冷な親潮がぶつかり合い、豊かな漁場が形成されるほか、多様な生物・植物の宝庫となっている。そんな恵まれた海の安全を守るのが、茨城県水難救済会である。

訪れたのは、北部域に位置する久慈支部救難所と、海岸線のおおよそ中央にある大洗支部救難所。久慈支部救難所のある日立

市は日立製作所の発祥の地としても知られるが、久慈漁港、水木漁港、河原子港、会瀬漁港、日高漁港、川尻港という港を持つ、漁業の盛んな土地柄でもある。長い海岸線には海水浴場が点在しているため、水難救助のための出勤も多いという。

一方、大洗支部救難所のある大洗町は県内有数の観光地で、北関東最大の大洗サンビーチ海水浴場など、マリネジャー関連施設が幾つもある。それだけに、

こちらも出勤要請はそれなりにあるそうだ。

今回、取材で出会った“海の男たち”は制服に身を包んだ紳士たち。しかし、ひとたび出勤要請があれば、誰よりも速く現場に駆けつけ、二次遭難をも恐れず、加えて、冷静さを失うことなく、的確な判断と機敏な動きで人命救助に挑む。

何がそうさせるのか。なぜそうするのか――。

太平洋という大海原で生きる男たちに聞いた。



# 大洗支部 救難所

▲結束力が身上の同救難所。(左から上山さん、飛田さん、飯田さん)

## しらす漁の町

茨城県のなだらかな海岸線のほぼ中央に位置する大洗港。観光地としても名を馳せる大洗町の海辺には、南から大洗サンビーチ海水浴場、大洗マリーナ、大洗港フェリーターミナル、大洗漁港、平太郎浜海水浴場、大洗岬大洗磯前神社……と、観光スポットが続く。そんな地域の海の安全を守っているのが、大洗支部救難所である。

大洗といえば毎年11月に開催される「大洗あんこう祭」や、冬の味覚・あんこう鍋が有名だが、訪れてみると、それ以上に「しらすの町」だった。

茨城県のしらす漁には「一艘曳き」という独自の漁法がある。なかでも、大洗はその発祥の地と言えるほどの歴史があり、手漕ぎの時代から行ってきたという。

「2隻で網を引き、ある程度の時間と距離をもって大量にしらすを獲る二艘曳きに比べ、一艘曳きは魚群探知機で群れを探し、取り囲んで網を落として引き上げる。そ

の間10分ほどで、速ければ5～6分で水揚げできます。当然、鮮度が良く、生きのいいしらすが獲れるというわけです」

自身も一艘曳き漁で操業する飛田正美所長が、その特徴を教えてくださいました。

## 一刻を無駄にしてはならない

所員の多くが、しらす船曳き網漁と、貝けた(マンガ)という漁具を用いて行うハマグリ漁を中心に



▲大洗磯前神社の二の鳥居

操業しているという同救難所は、事務局・役場の職員など約10名を加え、計63人から成る。

救難活動の傾向として、近年はプレジャーボートの事故に加え、海水浴客やサーファーの遭難などが多い。比較的最近の救難活動で、多くの所員が関わった事案を聞いた。

それは平成29年7月のことだった。銚田市汲上の浜で潮干狩りに来ていた人が流された。だが、鹿島海上保安署管内だったため、救助要請は鹿島灘支部救難所に入る。そこから、さらに大洗に連絡があったという。「要請というよりは、人が流されたので、近くで操業している船がいたら、注意して見てほしい」と。ちょうど20隻ほどが近辺で操業していたので、所員らは皆、漁を中断して捜索した。20分以上探したが見つからず、役員の10隻だけが残り、それ以外の人たちはしらすの搬入時間があったため、先に引き揚げた。

「流されてしまうと、本当に一刻を争う。でも私たちの行動如何によっては助かることもあるから。あ



▲飛田正美 所長

の時は、一人は行方不明になったけれど、もう一人は助かりました」漁協の参事を務める臼庭明伸救助士は力を込める。

また、平成26年10月には救難所自らが志願し、捜索に出たという案件もあった。

異変に気付いたのは臼庭救助士で、残業のため、事務所に残っていた時のことだ。回転灯の赤い光に何事かと海まで行くと、だいが先に車が浮いており、警察と通報者らしき人が言い争っていた。

「通報した時はすぐ近くに浮いていたのに、何もしないから沈んでいった」

そうしているうちにも、車はど



▲大洗岬に立つ灯台



▲上山 猛 副所長



▲大洗港内に停泊する漁船は100隻以上だ

んどん沖へ流されていく。それを見かねた臼庭救助士が、「救済会として船を出すから探してくれ」と願い出て出動した。

一刻の猶予もないと、飛田所長とすぐ連絡のついた小松崎一寿救助員が転落者の捜索にあたったが、見つけることはできなかった。

## 感謝と畏敬の念を、海に捧ぐ

「最近はずっとするような事故はないが、だいが前にサンビーチの沖に流されたサーファーを17～18人、助けたことがある。サーファーは波を求めてやって来るんだらうけれど、あの時はひどかった。一人助けては岸に戻り、また出動してと、何回も行ったり来たりした」

20年以上前のこの救難活動で同救難所は表彰され、飛田所長も東京で行われたその式典に参列した。

「でも、あの時は台風の後だった。波を見ながら、二次災害を覚悟しながらの出動にすごく緊張した



▲飯田晃司 副所長

ことを思い出します」と言うと、飯田晃司副所長も「レジャーに来る人も無理はしないでほしい、海を甘くみないでほしい。助けに行く側も命を懸けている。経験を生かし、機転を利かしながら、波の中を縫って出て行くってことは容易な覚悟ではできないもんな」と続けた。

それでも、日本水難救済会のボランティア救助員は救助要請があれば、皆、駆けつける。それが休日であろうと、早朝であろうと、深夜であろうとも――。

出動は、それぞれの自艇の時もあれば、救難所の監視船「第二いそかぜ」に乗っての場合もある。

「『いそかぜ』があるから、迅速な対応ができる。この存在は大きいよ」

そう言って、上山猛副所長は停泊する頼もしい相棒に目を細めた。その先に広がる海は仕事場であり、命を預けている場でもある。そして、大洗の海はまた、シラウオ、コウナゴ、シラス、メロウなど、次々に魚がやってくる恵みの海でもある。



▲大洗町漁協の参事でもある臼庭明伸 救助士



▲同救難所の皆さん。大切な日に着用するという制服姿で(左から河野さん、木村さん、今橋さん、飯島さん、大貫さん)

## 歴史に育まれた 「何が何でも助ける！」 という意志

茨城県北東部に位置する日立市の南部、久慈川の河口部に広がる久慈浜を拠点とする久慈町漁業協同組合と、久慈浜丸小漁業協同組合。茨城県水難救済会久慈支

部救難所は、この久慈町漁協内に組織されている。

その歴史は昭和5年に始まる。「当救難所は、同年に高松宮殿下が来町され、当時の久慈小学校で会旗伝達式が華々しく行われ、県内で最初に発足しました」

そう話すのは同救難所の今橋照男所長だ。式典の様子が記された新聞記事のコピーを、同年生ま

れの今橋所長は後年、手に入れ、大切にしてきた。当時の会旗には「大日本帝国水難救済会」と書かれていたという。

そんな歴史ある同救難所の長い活動のなかでも、所員の記憶に深く残っている出動がある。誰もが、平成14年8月28日のことを思い出していた。

夏休みで合宿に来ていた栃木県の女子高校の教師1人と生徒4人の計5人が、河原子南海岸で高波にさらわれ、そのうちの女子生徒1人が海上に流された。警察・消防からの要請で、ただちに救助長以下所員6人が、救難所所属船「新政丸」で遭難現場に急行。しかし、台風後の高波に行く手を阻まれ、二次遭難さえ覚悟しなければならぬ状況だったという。夕闇が迫り来るなかで必死に捜索したが、なかなか発見できない…。焦りと緊迫感に押しつぶされそうになった時、波間に見え隠れする女子生徒を発見。救助長の瞬時の決断によって、船を寄せたものの反応が



▲昭和35年以前の久慈川河口。「魔の河口」と呼ばれ、漁師の事故が頻発していたという



▲防災功労者として平成15年、内閣総理大臣表彰を受けた

なかったため、ロープを体に引っ掛けて船に引き上げ、救出した。

「あれは本当に奇跡的だった」と、当時出動した今橋所長、木村勲救助長、大貫定男看守長が口を揃えると、皆、大きく頷いた。

命を懸けた救出活動は翌年、海上保安庁長官賞、日本水難救済会名誉総裁の高円宮妃久子殿下から名誉総裁表彰、当時の小泉純一郎首相からは内閣総理大臣賞を授与された。

## たゆまぬ訓練が 遭難者の命を救う

そうした奇跡に近い救出を成功させることができたのも、「年に2回ほど行っている訓練の賜物。どの所員が駆けつけても、的確な初動態勢がとれるようになっていきます。それが一番大事なこと」。そう言い切るのは、大貫定男看守長。「ボランティアでありながらも訓練を続けるのは、ひとたび事故が起こったなら、どんな関係団体より救難所の



▲採鮑という仕事柄、素潜りが得意な飯島豊 救助長



▲平成2年から現職を務める今橋照男 所長

所員の船が真っ先に現場に駆け付けるべきだという使命感が皆の心にあるからです」と、言葉を継いだ。

訓練は毎年夏に行われる日立港全体の防災訓練への参加と、春先に救難所単独で実施する海難救助訓練の2つがある。かれこれ50年は続けているという独自の訓練では、市場内に事故船に見立てた船を用意して排水ともやい銃の訓練を行い、実働の確認と士気の維持・高揚を図っている。

そして、訓練の前に挙行するのが、旧暦2月15日頃(3月中旬)に行う総会である。「その日は特別な日ですから、全員制服を着用します。まず、隣町の常陸太田市にある海の神様・真弓神社に1年間の無事故・大漁を祈願し、その後、総会を執り行います」

木村勲救助長が、伝統行事とも言うべき救難所の“大切な一日”について話してくれた。つまり、当日は真弓神社への参拝、総会、訓練と、海の安全をとことん考える密度の濃い日になる。



▲普段は船曳網漁を行っているという河野正勝 副救助長



▲久慈町漁業協同組合長も務める、木村勲 救助長

## 海へ飛び込んででも 助ける

そうして醸成された海への感謝と畏敬の念、加えて「人命救助」というミッションは、漁業者としての日常の操業時にも、日本水難救済会のボランティア救助員としての緊急時にも、所員一人ひとりの胸に深く刻まれている。

そんな気概が発揮され、文字どおり人命救助を果たした救助活動が、平成29年9月の事案だ。イセエビ漁に出ていた漁業者の船が沖合で転覆した。場所は船の守り神「御根(おんね)さま」と呼ばれている岩礁の辺り。御根さまは満潮時には海中に沈み、干潮の際には白波が立っており、かつては座礁する漁船も多かったという。その場所で、イセエビ漁船の網が岩に引っかかって動けなくなり、岩の間に挟まってしまったらしい。

「全船操業を停止し、すぐさま現場へ急行せよとの出動要請が出たため、皆で協力しました」



▲活動記録をまとめている 大貫定男 看守長

自身も出動した、河野正勝副救助長が振り返る。

ところが、台風の余波で波が高く容易には近づけない。様子を見に行った消防艇がすぐさま引き返してきたほどだった。そんななか、現場に向かったのが飯島豊副救助長と長男の飯島正成救助員親子だった。普段は採鮑の仕事に従事し、素潜りに慣れているため、現場まで辿り着けたのだという。

「あの時、波は2.5mくらいあった。ロープを座礁船にかけようとして、その時、波を2枚かぶったけれど、もう少し遅れていたら手遅れになっていたかもしれないと思うと、救済会に入っていて良かったと。その名前と責任のもとで、躊躇することなく思い切って救助活動ができたと思っています」

その後、曳航して無事に港まで戻ってくると、100人くらいの人々が心配顔で待っていた。この功績で、飯島副救助長は消防署から表彰を受けた。

## 安全を下支えするために

久慈支部救難所のメンバーが母港としているのは、茨城港日立港区。港にある久慈地方卸売市場にはヒラメ、アナゴ、ヤリイカ、ミ



▲久慈港には60隻ほどの漁船が停泊している

ズダコ、サヨリなどが並んでいた。午後4時半、底曳き網船のセリを告げるベルが鳴った。

歴史と伝統を誇る同救難所は現在33人のメンバーで構成され、今年、新たに2人が加わる予定だ。だが、もちろん課題も抱える。

「漁業者自体が減少していることに加え、約20年前に一時、定年制のシステムにしてしまったため、60歳を過ぎると辞める人が増えて約3分の1が退会、一時20人くらいにまで落ち込んだことがあります。後継者まで減ってしまったため、この地区だけでなく、水木、

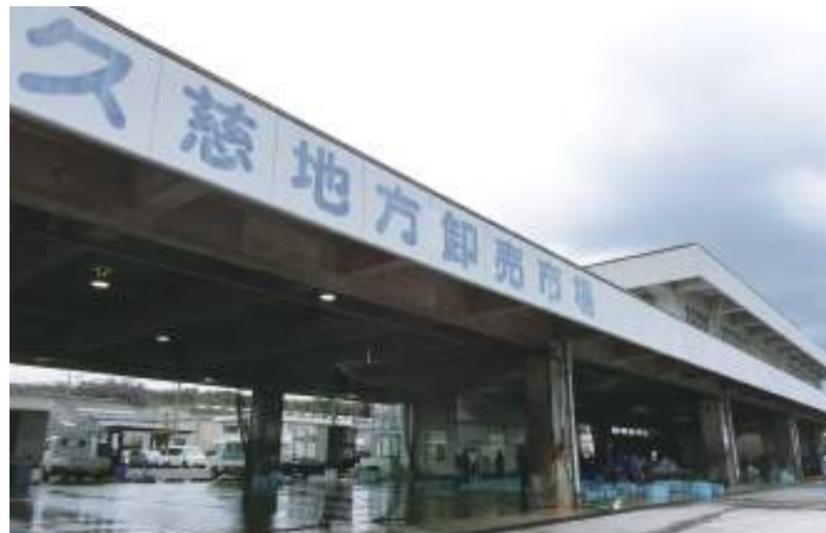
河原子、会瀬地区まで範囲を広げて勧誘し、現在の35人まで盛り返した経緯があります。」

木村救助長と大貫看守長が語った不安は、全国のどこの救難所にも横たわる問題だろう。

救済会に入らない漁業者もいるし、平均年齢が40代半ば以下という若さも多少は気になる。救助活動に何より大切なのは“経験”だからだ。実働部隊は若さがものを言っても、例えば、転覆した船の起こし方、引っ張り方など、百戦錬磨の指揮官がいてこそ、一刻を争う救命救助を成し遂げることができた現場を数多く目にしてきたからだ。また、組織を律し、継続・飛躍させていくためにも重鎮の存在は欠かせない。

それでも、老いも若きも、結局は「お互いさま」。恵みあふれる海で、時に荒れ狂う恐ろしい海で命を懸けて仕事をしているからこそ、助ける時もあれば助けられる時もある。安全の下支えは仲間が多い方が心強いに決まっているから――。

久慈浜の港には、今日もあまたのカモメの音が響いている。



▲しらす漁の時期は午前中も賑わう久慈地方卸売市場

全国地方救難所のお膝元訪問

# ニッポン 港 グルメ食遊記



▲二色丼



▲高橋早苗さん

▲魚市場エリアの様子

## かあちゃんの店

大洗漁港に面し、大洗港魚市場の目の前にある、大洗漁協直営「かあちゃんの店」。メディア紹介やガイドブック掲載でも常連の、誰もが知る超有名店だが、ここまで来たら絶対に外せない! 漁協女性部の「かあちゃんたち」が作る新鮮で美味しい海鮮をいただいた。

### 二色丼で美味しさも2倍

「かあちゃんの店」。太平洋から吹き付ける風にも負けない、カラフルで豪快な看板の前にズラリと並んだ人の列。この日は平日で、しかも早目狙いで12時前に来たというのに、だ。前に並んでいた地元の漁業関係者らしき人に聞くと、「これでも、今日は少ないほう」とのこと。ますます期待が高まる。

想像していたよりは早く、20分ほどで店内へ。まず、カウンターで食券を買う。しらす丼にするか、釜揚げしらす丼にするか悩んだ末に、両方を半物ずつ味わえる「二色丼」と決めていた。

ほどよいタイミングで運ばれてきた二色丼は、感動に値する美しさと美味しさだった。その日に獲れた身が透きとおったしらすと、白くてふわふわとした釜揚げしらすの競演に、生卵の存在感。



茨城県東茨城郡大洗町磯浜町8253-20  
TEL.0292-67-5760

「最初は醤油を垂らさず、そのまま食べてみて」という、おすすめ情報に従って、普段なかなか味わえないしらすの甘みと食感を楽しみ、続いて、とろけそうなやわらかさの釜揚げしらすを堪能。塩気もちょうどいい。卵の黄身をからませた濃厚な一口もなかなかの味わいだった。

### 大洗の新鮮な海の幸を腹いっぱい食べてもらいたい

この繁盛店を切り盛りしているのが、浜の元氣なかあちゃんたちだ。オープンしたのは平成22年4月だが、翌年の東日本大震災の津波被害によって中断し、平成23年6月に再スタートを切った。

この事業をリードしてきたのが、漁協女性部の前部長・高橋早苗さんだ。

10年ほど前から、漁師の夫たちが獲ってくる魚を干物にしたり、しらすを釜揚げにしたりして、市場の一角で売り続けていた実績が町や組合から認められ、「店をやってみれば」と勧められたのがきっかけだったという。最初は女性部70人のうち有志13人で始め、日当500円で頑張っていたが、「今は45人で3班のローテーションを組んでいますし、時給も650円になりましたよ!」と、明るく笑う。

厨房では、高橋さんをはじめとする浜のかあちゃんが腕を振るい、活気にあふれている。

「モットーは3つ。新鮮さ、安さ、ありのまま。なんでもうまいよ!」と、アピールしてくれた。



# 全国52,000人のボランティア救助員の活動を支援しています 青い羽根募金活動レポート2017

公益社団法人福岡県水難救済会 大岳救難所所属救助船「おたけ2」の体験航海

## 平成29年度「青い羽根募金」の状況

本年度も「海の日」を中心に7～8月の2ヵ月間を「青い羽根募金強調期間」と銘打ち、全国道府県水難救済会と協力して積極的に募金活動を実施。

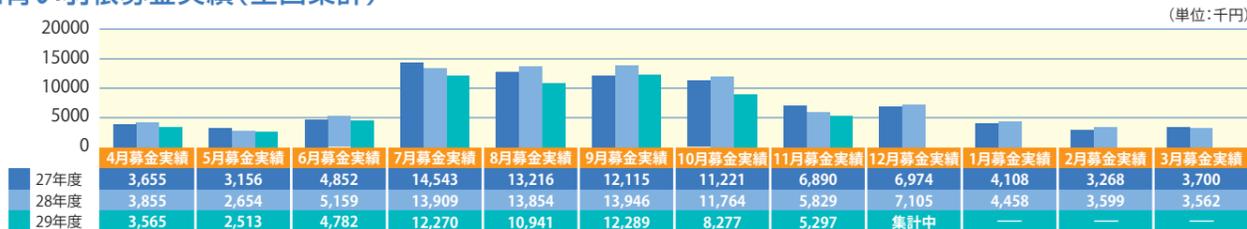
全国の多くの皆様から、青い羽根募金の趣旨にご賛同をいただき、暖かいご支援をいただきました。また、海上保安庁、防衛省等関係省庁をはじめ自治体、企業、団体等からもご支援をいただきました。特に防衛省の陸上、海上及び航空自衛隊の隊員の皆様や、海洋少年団および学校生徒会等の皆様に募金活動への多大なご協力をいただきました。

皆様のご支援により平成29年11月(4月から11月末の集計)までに、59,934,937円の募金をいただきました(下図「青い羽根募金実績」参照)。



宮城県水難救済会募金活動の様子

## 青い羽根募金実績(全国集計)



## 藤沢海洋少年団 様



平成29年9月23日、24日、藤沢市民まつりにおいて、青い羽根募金活動に藤沢海洋少年団団員の皆さんがご協力してくださいました。

## 清水海洋少年団 様



平成29年11月5日清水港に入港していた大型帆船「海王丸」の一般公開(船内見学)に併せ、青い羽根募金活動に清水海洋少年団団員の皆さんがご協力してくださいました。

## 長崎海洋少年団 様



平成29年11月18日巡視船「でじま」の一般公開に併せ、青い羽根募金活動に長崎海洋少年団団員の皆さんがご協力してくださいました。

## 各地の「青い羽根募金支援自販機」設置活動

全国の津々浦々で昼夜を問わず、献身的に捜索救助に勤しんでいる民間ボランティア救助員が、海上における厳しい自然環境の中で一刻を争うような事態に際しても安全かつ迅速的確に捜索救助活動を実施していくためには、日頃から各種研修訓練を実施するとともに、基本的な救難用資器材の整備や救助船の運航等に必要の諸経費をできるだけ十分かつ安定的に確保していくことが不可欠であります。こうした民間ボランティア救助員の活動を支援しているのが、一般の市民や企業等から寄せられる「青い羽根募金」です。

「青い羽根募金」は、公益社団法人日本水難救済会のホームページからインターネット募金する方法や「青い羽根募金」口座に振り込む方法等のほかに、「青い羽根募金支援自販機」でドリンクを購入すると、その売上金の一部が自動的に「青い羽根募金」として寄附されます。

日本水難救済会では、「青い羽根募金支援自販機設置のお願い」と題するリーフレット等により全国的な普及促進を図っております。皆様のご支援ご協力をお願いいたします。

## 宮城県水難救済会

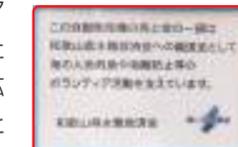
宮城県水難救済会で初めてとなる「青い羽根募金支援自販機」が設置され、平成29年8月30日、報道陣等が見守るなか、除幕式が執り行われました。

この支援自販機は、宮城県水難救済会事務局のある宮城県水産会館1階に設置したもので、売り上げの一部が「青い羽根募金」としてボランティア救助員の活動費に充てられるほか、この支援自販機の設置された宮城県水産会館が宮崎市の指定緊急避難場所であることから、災害発生時には自販機内の飲料水を無料で被災者に提供する災害対応型自販機となっています。



## 和歌山県水難救済会

和歌山県漁業協同組合連合会様のご協力により、和歌山県水産会館前に「青い羽根募金支援自販機」1台が設置され、平成29年11月15日から運用が開始されました。和歌山県内の青い羽根募金支援自販機は、本機で5台目で、ボランティア救助員の支援のため、今後、更に設置拡大を図って行くこととしています。



## 公益社団法人 日本水難救済会

日本水難救済会では、東亜建設株式会社様のご協力により陸前高田脇ノ沢工事事務所に青い羽根募金支援自販機(ダイドードリンコ)1台を設置していただきました。

本自販機には、青い羽根募金支援自販機である旨の口上書やきゅうすけくん・シール等が添付されています。

この自動販売機の売上金の一部は青い羽根募金として公益社団法人日本水難救済会の海難救助ボランティア活動を支援しています。

公益社団法人日本水難救済会



## 青い羽根募金の使い道は？

使い道は、部外の有識者で構成する青い羽根募金運営協議会委員の審議承認を得て決定され、救難物品、装備資機材費、出動報償、人命救助訓練、装備機材維持管理、募金付帯業務に使われます。

### ●救命索発射器



### ●夜間捜索用照明器具



### ●人命救助訓練用機器



### ●救命浮環



### ●自動体外式除細動器 (AED)



流されても…  
浮いてさえいれば!

### 生命(いのち)を繋ぐ環

## ライフリング・プロジェクト

日本水難救済会及び各地方水難救済会では、岸壁・防波堤における海中転落事故による死者・行方不明者が海浜事故の約6割を占めていることから、広く国民の皆さまから寄せられた「青い羽根募金」を原資として、一般人の海中転落事故発生のおそれのある桟橋及び海浜公園等に救命浮環を設置する「ライフリング・プロジェクト(救命浮環設置事業)」を展開しております。

ライフリングには、岸壁の手すり等既存の設備に取り付けたもの、スタンドを立て取り付けたもの、及び水辺の近くに設置した「青い羽根募金支援自販機」のダストボックスにライフリングを内蔵したものがあり、平成29年10月末現在、全国で197個(うち青い羽根募金支援自販機内蔵型26個)が設置されております。

### ●青い羽根募金支援自販機内蔵型



ダストボックスを開けた状態

### ●スタンド型



## 「青い羽根募金」にご協力いただいた企業、団体等に感謝状を贈呈



### ■鹿島建設株式会社 様

平成29年10月12日、日本水難救済会向田理事長から鹿島建設株式会社専務執行役員 竹田様(中央)に会長感謝状及び事業功労有功盾が伝達されました。



### ■航空自衛隊入間基地 様

平成29年10月16日、日本水難救済会菊井常務理事から航空自衛隊入間基地司令 中原様(右)に会長感謝状及び事業功労有功盾が伝達されました。



### ■株式会社港屋 様

平成29年10月24日、日本水難救済会向田理事長から株式会社港屋代表取締役社長 坂田様(中央)に会長感謝状及び事業功労有功盾が伝達されました。



### ■SGホールディングス株式会社 様

平成29年10月25日、日本水難救済会菊井常務理事からSGホールディングス株式会社取締役 笹森様(右)に会長感謝状及び事業功労有功盾が伝達されました。



### ■若築建設株式会社 様

平成29年12月8日、若築建設株式会社東京本社において、同社代表取締役社長 五百蔵様(右から2人目)へ、日本水難救済会向田理事長から会長感謝状及び事業功労有功盾が伝達されました。



### ■東洋建設株式会社 様

平成29年12月11日、東洋建設株式会社本社において、同社代表取締役社長武澤様(左から3人目)へ、日本水難救済会菊井常務理事から会長感謝状及び事業功労有功盾が伝達されました。



ボランティアスピリットの継承のために  
**水難救済思想の普及活動レポート**

佐賀県水難救済会による伊万里市立大坪小学校での「海の安全教室」の様様

海の安全教室

平成13年度から平成28年度までは全国の小中学校等で児童・生徒を対象に「若者の水難救済ボランティア教室」を開催し、講師の海上保安官やライフセーバーの皆さんから海での事故を防ぐための知識のほか、万一、自分や友達等が海で遭難した時に助かる術と安全に助ける術を実地に手ほどきを受けていましたが、平成29年度からは、指導内容を若干見直したうえで名称を「海の安全教室」に改め、受講対象者も子供たちだけでなく、教師や保護者をはじめ、地元一般市民にまで拡大し、引き続き全国各地で展開しています。

愛知県水難救済会

夏季レジャーシーズンに向けて

平成29年7月31日午前、名古屋市立吹上小学校において、愛知県水難救済会職員その他、名古屋海上保安部職員を講師にお招きし、同小学校6年生40名を対象に「海の安全教室」を開催しました。

教室では、海辺で遊ぶ時の注意事項、ペットボトルを利用した浮力の確保、救命胴衣の浮力体験等を行い、自己救命策を学びました。



救命胴衣着用体験



愛知県水難救済会職員による講習

特定非営利活動法人 長崎県水難救済会

イベントに合わせて海の安全教室を開催

平成29年7月30日、長崎県大村市馬場先ポートパークで行われた海遊び伝習塾において、大村市周辺の小中学生とその保護者約100名が参加し、「海の安全教室」を開催しました。

教室では佐世保海上保安部職員を講師にお招きし、長崎県水難救済会職員とともに参加者に対して「水の事故を避けるためにはどうしたらよいか」を学びました。

その後、佐世保海上保安部巡視艇「むらかぜ」の船内見学や水上バイクの試乗体験を行い、皆さん興味津々で楽しそうでした。



海上保安官からの説明



水上バイクの試乗体験

高知県水難救済会

身近な物を利用した溺者救助法等を学ぶ

平成29年9月9日午前、高知市立長浜小学校において、高知海上保安部職員3名を講師にお招きし、同小学校1～5年生22名、保護者10名、教職員6名が参加し、「海の安全教室」を開催しました。

教室では、自己救命策確保に関する説明をはじめ、身近なものを活用した救助法等を学び、ライフジャケットの着用体験も行いました。

参加した児童からは「ペットボトルだけですごく浮いたのでびっくりした。」などの感想が聞こえてきました。



ライフジャケット着用体験



ペットボトル等による浮力確保体験

## 佐賀県水難救済会

## 着衣泳指導員による海の安全教室を実施

平成29年7月14日、伊万里市立大坪小学校において、佐賀ん着衣泳会の着衣泳指導員2名、伊万里・有田消防組合職員8名及び唐津海上保安部職員3名を講師にお招きし、全校生徒545名が参加しました。

また、平成29年7月19日午前には、佐賀県有田町立大山小学校において、佐賀ん着衣泳会着衣泳指導員4名、伊万里・有田消防組合職員3名及び唐津海上保

安部職員2名を講師にお招きし、4～6年生115名が参加し、「海の安全教室」を開催しました。

両教室では、プールにおいて衣類や靴などが浮き具として活用できることや、背浮き等を体験してもらい、万一事故が発生した場合、自ら水に入っただけの救助ではなく、安全な場所から浮き具を提供し、周りに助けを呼ぶことなどを学びました。

## 伊万里市立大坪小学校



背浮き体験

## 有田町立大山小学校



海の安全教室開始前の説明



救命胴衣着用体験



救命胴衣着用体験

## 教室で使用する救命用具



救命胴衣



ペットボトル



救命胴衣着用体験



## 海難救助訓練ほか

平成29年度は、現在までに全国の地方水難救済会において延べ95の救難所・支所から1,947名の救難所員が参加して実地訓練などが行われました。

熊本県水難救済会による富岡救難所員による実地訓練の様相

## 熊本県水難救済会

## 富岡港において海難救助訓練を実施

平成29年9月3日、熊本県天草郡苓北町富岡港において、熊本県水難救済会富岡救難所員実地訓練を行いました。

訓練は同救難所員37名が参加して救命索発射器の取扱い訓練、火災船舶救助訓練、陸上からの救出訓練等が行われました。火災船舶救助訓練では救助船に小型動力ポンプを積載して消火活動を行うとともに、救助船でゴムボートを曳航、火災想定船に接近し、乗組員を救助、陸上まで搬送しました。また、陸上からの救出訓練では、浮輪やペットボトルを使用して陸上の安全な場所まで引き揚げる訓練を行いました。



火災船舶消火救助訓練



火災想定船から負傷者を救助



陸上からの救助訓練

## ■特定非営利活動法人 長崎県水難救済会

### 7救難所が集合して長崎地区沿岸海難救助訓練を実施

平成29年10月14日午後、長崎サンセットマリーナ内公共岸壁及びその前面海域において、長崎海上保安部職員のご指導のもと、長崎県水難救済会の稲佐、三重、小菅、川原、毛井首、野母崎、ヤマハマリン西九州の7救難所が参加して長崎地区沿岸海難救助訓練が行われました。

訓練項目は、もやい銃操法講習、応急手当法講習、漂流者揚収訓練、火災船消火訓練及び曳航訓練であり、大変充実した内容でした。



漂流者揚収訓練



小型船曳航訓練



漂流者救助に使用する救命浮環

### 九十九島湾で佐世保地区沿岸海難救助訓練を実施

平成29年9月24日、九十九島湾オジカ瀬周辺海域において、佐世保海上保安部職員のご指導のもと、長崎県水難救済会稲佐救難所の他、佐世保地区小型船安全協会、99レスキューレンジャー、九州磯釣連盟佐世保地区局等が参加して、海中転落者救助訓練、カヤック救助訓練、近距離もやい銃発射訓練等、佐世保地区沿岸海難救助訓練が行われました。

近距離もやい銃発射訓練では、長崎県水難救済会救助船「旭龍」から遭難船役の佐世保海上保安部巡視艇「むらかぜ」を目標に救難所員が近距離もやい銃を発射させ、見事に「むらかぜ」に救助索を渡すことができました。



巡視艇「むらかぜ」に向けて、もやい銃を発射



見事に救命索を想定船に

## ■京都府水難救済会

### 平成29年度舞鶴総合防災訓練に参加

平成29年10月14日午前、防災関係機関同士の連携をさらに強固なものとし、市民の防災意識高揚を図り、減災につなげることを目的として、大規模地震の発生を想定し、海上自衛隊、陸上自衛隊、舞鶴海上保安部、京都府舞鶴警察署など市内等に所在する各防災関係機関及び地域住民が一体となった平成29年度舞鶴総合防災訓練が行われ、京都府水難救済会舞鶴救難所が参加しました。

この訓練は海上自衛隊舞鶴教育隊をメイン会場として次のような想定の下に広域防災活動拠点運用訓練、現地調整所運用訓練、ヘリコプターによる被害状況調査訓練、倒壊家屋および事故車両救出訓練、洋上漂流者救出訓練、避難住民健康調査訓練、初期消火訓練(水消火器、バケツリレー)、救急訓練、一斉放水訓練などが行われました。



救助船による孤立住民搬送訓練の様相

#### 【想定】

大規模地震(若狭湾内断層M7.2)が発生し、舞鶴市では震度6強を観測、津波警報が発表され、この地震により市内各所で建物の崩壊、同時多発火災、土砂災害、道路の寸断が発生、外海沿岸部では津波が襲来した。さらには、一部集落が孤立するなど、市内全域にわたり甚大な被害が発生し、住民は避難する一方で初期消火、応急救護活動を実施している。舞鶴市は市役所に災害対策本部を設置。京都府を通じ、自衛隊など防災関係機関に出動を要請し、災害応急対策活動を開始した。

また、田井地区では津波避難訓練が行われ、小橋・三浜地区では「地震により道路が寸断され孤立した住民がいる。」との想定により、舞鶴救難所所属の救助船により孤立住民を救助、沖合に待機していた海上自衛隊の掃海艇「すがしま」まで搬送する海路避難訓練が実施されました。

なお、当日、啓発・展示防災関係機関の車両や資機材、防災啓発の展示、起震車や煙避難体験コーナーも設けられました。



孤立住民を沖合いの海上自衛隊掃海艇「すがしま」へ移送

## ■和歌山県水難救済会

### 田辺港において実施された田辺市防災訓練に参加

平成29年9月3日、和歌山県田辺漁港沖合い等において、平成29年度田辺市防災訓練が行われ、田辺海上保安部や田辺市等の防災関係機関等とともに和歌山県水難救済会紀南西部救難所が参加しました。

訓練は、南海トラフ巨大地震などの大規模災害に備え、関係機関の連絡体制の確立を図り、迅速かつ円滑な救助活動を行うための連携訓練を実施することにより、防災体制の充実強化及び防災意識の向上を図ることを目的として、「南海トラフを震源とするマグニチュード9.1の海溝型巨大地震が発生し、田辺市内で震度7の揺れを観測するとともに、和歌山県沿岸部に大津波警報が発表されました。また、台風接近に伴う大雨により各地で洪水、土砂災害が発生するおそれがある。」との想定で行われ、紀南西部救難所所属の救助船4隻は漁業無線による非常通信訓練、沖合避難訓練や巡視船と連携した漂流者救助、搬送訓練が行われました。



漂流者救助訓練の様子(上・下)

# 水難救助等活動報告

平成29年度下半期に報告のあった、  
主な水難救助活動の事例を報告します。

## ① 転覆したミニボートの乗組員を救助

公益社団法人 琉球水難救済会  
金武救難所

平成29年8月8日午後0時頃、沖縄本島のほぼ中央にある国頭郡金武町伊芸の沖合で釣をするためアンカーを投入した際に、予期せぬ波を受けてミニボート(ゴムボート)が浸水・転覆し、救命胴衣を着用して投げ出された2名は、転覆船に掴まりながら漂流中、そのうち1名が持っていた防水型携帯電話により118番にて通報を行い、この通報を受けた中城海上保安部は直ち



救命胴衣を着用し漂流中の2名を救助船が救助  
(第十一管区海上保安本部那覇基地ヘリ撮影)

## ② うつ伏せで漂流している男性を発見・救助

千葉県水難救済会 富津岬PW救難所

平成29年7月22日午後4時25分頃、富津公園沖合いで、うつ伏せて浮いている者を富津岬PW救難所所属の救難所員が発見し、直ちに泳いで救助に向かい、確認したところ、顔面蒼白で意識が無い状態でした。このため、浜に居た他の救難所員等に協力を依頼するとともに、119番通報及び118番通報を行いました。

その後、同人を救助員が一致協力し、浜に引き揚げたが、脈はあるが呼吸がないことから心肺蘇生措置を開始したところ大量の海水を吐き出し、自発呼吸を再開し、駆けつけた消防救急隊に引継ぎ救助を完了しました。



救助後に引継いだ消防救急隊の様子



に金武救難所に対し、「金武伊芸海浜公園沖合に転覆ボートがあり、2名が救助を求めている」との出動要請を行いました。

午後0時20分頃、金武救難所から救助要請を受けた付近海域で漁労中の金武救難所所属の救助船「瑞希丸」(総トン数1.13トン)船長は直ちに漁を中止し救助に向い、捜索を行っていたところ、第十一管区海上保安本部那覇基地所属のヘリコプターが2名の遭難者を見、ヘリコプターに誘導された救助船「瑞希丸」が転覆したボートに掴まっていた2名に浮輪を投げて無事船内に引き揚げ救助したのち、捜索を行っていた消防ゴムボートに引き渡すとともに、その後、船体を浜田漁港まで曳航し、無事救助を完了しました。

なお、遭難者2名(うち1名は12歳の少年)の海難救助に関し、迅速かつ的確な救助活動であったとして、中城海上保安部長から感謝状が贈られました。

## ③ 座礁・浸水したミニボートを救助

千葉県水難救済会 富津岬PW救難所

平成29年8月26日午後4時13分頃、東京湾富津岬から約1,500メートル沖合の第一海堡南側の岩場に乗揚げ、後部右舷側より波により海水が浸入しているミニボート(2馬力)を付近海上にて見回り中の富津岬PW救難所所属の救助船(PWC)が発見、状況を確認するとエンジントラブルにより動けなくなったもので、発泡スチロール箱で海水を排出していましたが、このままであると危険なことから同ミニボートに乗っていた男性1名を島に上げて救助するとともに、他の救助員に応援を依頼し、その後、ミニボートを岩場から引き降ろして付近の安全な砂場まで曳航、海水を排水したのち、組立て式のボートであったことから曳航できるようにした後、富津岬まで曳航し、駆けつけた海上保安庁の職員に引継ぎ、救助を完了しました。



ミニボートを安全な砂場まで曳航して組み立て直し作業中



乗揚げたミニボートを発見

## ④ 衝突転覆海難に対応

佐賀県水難救済会 玄海下地区救難所

平成29年7月23日午前5時30分頃、唐津市所在の東松浦半島最北端の波戸岬から約9km西に位置する馬渡島付近の漁場に向かって航行中の漁船と漂流して遊漁中のプレジャーボートが衝突し、プレジャーボートが転覆して乗船していた5名が海に投げ出されました。

午前5時42分頃、海難発生時の118番通報を受けた唐津海上保安部からの出動要請を受け、佐賀県水難救

済会玄海下地区救難所所属救助船「金比羅丸」が午前6時、救助員6名を乗船させ出動、同午前6時30分に現場に到着しましたが、全員、転覆船乗組員は衝突した漁船により救助されていたため、転覆したプレジャーボートを外津漁港まで曳航救助しました。

なお、救助された者の内1名が骨折、他の者も全員が打撲等の怪我をしていました。



転覆船の曳航準備作業中の救助船



転覆船を曳航する救助船

## ⑤ 乗揚げ船を無事救助

### 和歌山県水難救済会 紀中救難所

平成29年7月26日午前11時30分頃、定係港の箕島漁港向け帰港中の漁船(長さ8.13メートル)が和歌山県有田市所在の宮崎の鼻灯台から西方約1海里付近において機関停止し、漂流し始め、復旧作業を試みるも北西の風が強く、午後0時頃、岩礁に乗揚げたため、同僚の救助員に携帯電話で、救助要請を行いました。

この通報を受けた救助員は、他の救助員2名の協力を得て、紀中救難所所属救助船「早紀丸」(1.9トン)及び「金比羅丸」(7.9トン)に乗船し出動。現場到着した後、直ちに救助船から救難所員が泳いで乗揚げ船にたどり着いて、曳航索を取り付けた後、乗り上げた船を金比羅丸で引き降ろし、箕島漁港まで曳航し、救助完了しました。

## ⑥ 転覆し投げ出された2名を迅速に救助

### 公益社団法人 琉球水難救済会 宝島救難所

平成29年6月11日午前11時27分頃、「野底ビーチ沖でプレジャーボートが転覆し、現在、同ボートの船底に、乗員2名が乗っている状態である。」との通報を受けた石垣海上保安部は石垣市消防本部に情報提供を行いました。情報提供を受けた石垣市消防本部は宝島救難所に情報の提供及び救助の協力依頼を行いました。

協力依頼を受けた宝島救難所長は、直ちに救助船(水上バイク)を出動させ、現場海域において転覆船の上で救助を待っていた2名を水上バイクに揚収、船越漁港まで搬送し救助しました。

なお、2名は、釣を終え、帰港するためアンカーを引き揚げていた最中に波を受け転覆、海に投げ出され、船底に這い上がって118番通報で救助を求めたもので2名ともケガもなく病院への搬送もありませんでした。

## ⑦ 推進器障害、漂流船を発見救助

### 公益社団法人 北海道海難防止・水難救済センター 石狩救難所

平成29年9月10日午後4時頃、石狩川河口沖合でプレジャーボートが定置網のロープにプロペラを絡ませ航行不能となり漂流していると通報を受けた小樽海上保安部から石狩救難所に出動要請があり、救助船「第七十八石狩丸」に救助員3名が乗りこみ出動、捜索を実施したところ、同漂流船を発見、曳航して同日午後6時50分頃、石狩湾新港に無事入港しました。

## ⑧ 岩場から滑落した釣人を救助

### 特定非営利活動法人 神奈川県水難救済会 小田原救難所

平成29年9月2日午前11時頃、小田原市所在の根府川海岸沖100~200メートル沖合の岩場から滑落し海で溺れている男性(釣り人)がいるとの救助要請が湘南海上保安署及び小田原消防署からありました。

この救助要請を受けた小田原救難所長は、所属の救助船「坂口丸」(19トン)に所属の救助員2名を乗船させ、直に出動して現場到着しましたが、現場は岩場に加え台風15号の影響で波が高く救助船での接近は困難であったことから救命浮環を遠投するなど救助を試みた結果、同人を岩場から移動させることができ、引き続き、飛来した横浜消防局のヘリによって同人は無事吊上げ救助されました。

## ⑨ 暗夜の中捜索中、発見救助

### 特定非営利活動法人 長崎県水難救済会 稲佐救難所

平成29年7月22日午後8時30分頃、長崎市所在の伊王島灯台から西北西約1.4海里の海上で遊漁中のプレジャーボート(1.46トン、1名乗組み)からエンジンが起動しなくなったと稲佐救難所長に対して、携帯電話にて救助依頼がありました。

通報を受けた長崎県水難救済会稲佐救難所長は直ちに帰港中の救助船「真喜丸」(2.8トン)を現場に向かわせ、暗夜の中、直ちに捜索を開始したところ、伊王島南西沖で同船を発見、曳航を開始、小樽港に入港し無事救助しました。

なお、プレジャーボートは燃料系統の不具合によりエンジンが停止、航行不能となっていたものです。

## ⑩ 救命筏で避難の6名を救助

### 宮崎県水難救済会 日南市漁業協同組合救難所

平成29年6月22日午前4時30分頃、奄美大島西方で漁船が横倒しの半沈没状態になっているのを遭難通報の無線を傍受し、付近を捜索していた宮崎県水難救済会日南市漁業協同組合救難所所属の救助船「徳慎丸」(19トン)が発見し、無線により油津漁業無線局に通報を行うとともに、付近に乗組員が見当たらないことから、捜索を継続し、同日午前5時20分頃、漂流中の救命筏を発見、乗っていた乗組員6名全員を救助しました。

なお、救助された乗組員6名は全員怪我等も無く無事でした。

# 新設救難所の紹介

海難救助の拠点となる、新たな救難所が新設されています。今回は、平成29年7月から12月末までに設置された2か所の救難所をご紹介します。なお、紹介文は地方水難救済会からご提供いただきました。

## 宮城県水難救済会

### ◆ 奇磯救難所

- 平成29年10月1日設立 ●所長以下17名
- 所在地 宮城県石巻市奇磯浜前浜28-4  
宮城県漁業協同組合奇磯前網支所

奇磯救難所は宮城県牡鹿半島東部に位置し、霊験あらたかな金華山が望まれ、世界三大漁場のひとつである金華山漁場が近くにあり、好漁場に恵まれたこの地域では、いかつり漁などの漁船漁業やホヤ・ホタテなどの養殖漁業が盛んに営まれています。十数年前、タコ漁の漁船転覆事故により尊い生命が失われました。このため救難所の設置を検討していましたが、東日本大震災によりその計画実施が一時中断されていました。本地域も甚大な被害を受けましたが、全国の皆さまか



奇磯救難所の皆さん

### ◆ 石巻湾救難所

- 平成29年11月1日設立 ●所長以下10名
- 所在地 宮城県石巻市塩富町1-1-3  
宮城県漁業協同組合石巻湾支所

石巻湾救難所は三陸リアス式海岸南端にある「万石浦」湾口部に位置しています。万石浦は、古くは「奥の海」と言われ、新古今和歌集でも枕歌として詠まれた景勝地です。また、食生活ジャーナリスト・岸朝子さんの実父で世界のかき王と呼ばれた宮城新昌氏が、かきの養殖技術を確立させた地としても知られ、現在では全国一のかき採苗生産量を誇る「かきの郷」として親しまれています。

当救難所の設置については、3.11の東日本大震災がきっかけとなったのは言うまでもありません。以前からさまざまな救難活動に携わってきたものの、この未曾有の災害により多くの尊い命が目の前で奪われ、命の大切さ、そして命を救う大切さを深く痛感させられました。本来ならすぐにも救難所を設置すべきでした

宮城県石巻市は、東日本大震災で最も甚大な被害を受けた地域であり、石巻漁港を擁する市中心部(人口11万人余り)の高台を除くほぼ全域が津波被害に襲われました。今後、地域の早期復旧・復興とともに新設された宮城県水難救済会奇磯救難所、石巻湾救難所等のご活躍をお祈りいたします。



ら温かいご支援をいただき、震災復旧が日々進捗し、以前の浜の姿を取り戻しつつあります。

このような中、海での悲劇を防ごうと救難所設置を急務とし、多くの皆さまや関係機関のご協力によりこの度完成することができました。

海は我々に豊かな恵みを与えてくれますが、その一方で脅威と化し深い悲しみをもたらすこともあります。海と共に生きる者にとって危険は隣合わせです。

救難所の設置により漁業者をはじめレジャーを楽しむ人達の危機への対応と「海で身を守る心構え」を浸透させ、海における命を守る役割を担ってまいりたいと思っております。

が、状況が許さずこのたびの設置となりました。

これからは研修・訓練等を経て、近隣の救難所や関係機関と連携を図りながら救難所としての機能そして責務を果たしていきます。震災により一旦は影を落とした漁業もあと少しで震災前の姿に戻り、船舶の往来が頻度を増すとともに、近隣の海水浴場の再開や防災マリナーの整備なども進み、漁業・レジャー等さまざまな形で海と接する機会が増えていきます。

このような中、できる限り我々が出動することのないよう、まずは関係機関と協力、事故の未然防止を図り、安全策を啓蒙しながら救難所の役目を果たして参ります。



石巻湾救難所の皆さん

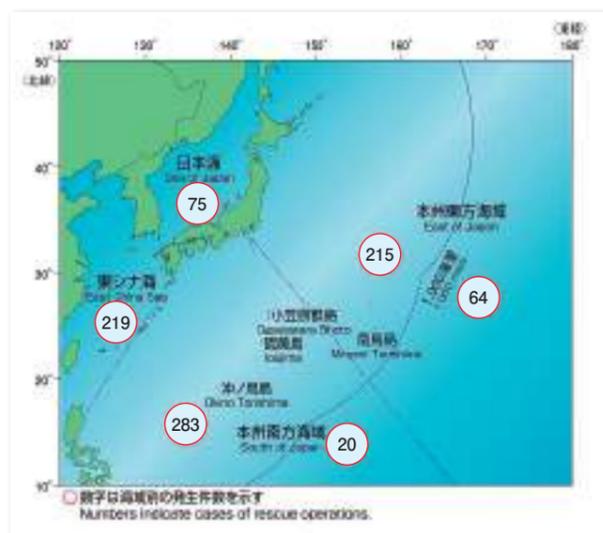
## 洋上救急活動報告

事業開始以来、平成29年12月31日までに876件の洋上救急事案に対応しています。

洋上救急事業は全国健康保険協会や日本財団、海事センターなど各諸団体からの資金援助と医療機関、医師・看護師、海上保安庁や自衛隊の全面的な支援を受けつつ、昭和60年10月の事業開始以来、平成29年12月31日までに876件の事案に対応してきました。

これまでに傷病者909名に対し、医師1,142名、看護師522名が出動し、診療や治療を行っています。

■洋上救急発生海域図



## 海上保安庁巡視船と海上自衛隊救難飛行艇が連携し、漁船乗組員を搬送

平成29年8月6日 14:26発生

平成29年8月6日午前2時26分、航行中の高知県船籍まぐろ延縄漁船の船主から「所属船乗組員に急患(30歳、インドネシア人)が発生しているので救助願いたい。」旨、通報があり、その後傷病者の様態について保土ヶ谷医療センターからの医療指示により、洋上救急の要請がありました。午後11時55分、機動救難士2名同乗の宮城海上保安部巡視船ざおうが該漁船と会合し、搭載機により傷病者を収容しました。9日午前9時25分、医師2名同乗の海上自衛隊岩国基地所属の救難飛行艇US-2が厚木基地を出発。午後0時49分、巡視船ざおうから海上自衛隊救難飛行艇US-2に傷病者を移乗させ収容。午後4時20分、傷病者は海上自衛隊厚木基地で救急車に引継がれ、藤沢市民病院へ搬送されました。

【発生位置】 金華山灯台から180度約1,260海里  
 【傷病者】 男性30歳(インドネシア国籍 甲板員)  
 【傷病名】 急性虫垂炎、脱水症  
 【出動医療機関】 日本医科大学付属病院(医師2名)  
 【出動勢力】 宮城海上保安部巡視船ざおう  
 第二管区海上保安本部仙台航空基地 機動救難士2名  
 海上自衛隊岩国基地 救難飛行艇US-2  
 支援機 P3-C



ゴムボートで救難飛行艇に傷病者を移送



飛行艇内の傷病者

(写真提供:海上自衛隊)



救難飛行艇US-2に傷病者を収容

## 海上保安庁航空機と巡視船が連携し、冷凍貨物船乗組員を搬送

平成29年8月9日 11:30発生

平成29年8月9日午前11時30分、船舶所有者から代理店を通じ、「釧路港の東北東約800kmの海上において、キリバス船籍冷凍貨物船の乗組員1名が倒れ、右半身が麻痺しており、日本の医療機関医師より医療助言を受けたので洋上救急を要請したい」旨、洋上救急の要請がありました。午後5時52分、函館空港において第一管区海上保安本部千歳航空基地所属の航空機MA861に医師1名、看護師1名が同乗し、釧路向け出発。午後7時18分、医師等は釧路航空基地所属のヘリコプターMH904に乗り換え、午後7時45分釧路海上保安部巡視船そうやに着船。10日午前7時、釧路航空基地所属のMH904に吊上げ収容した傷病者を巡視船そうや船内に搬送し、医師による治療開始。午後0時2分、医

師、看護師及び患者がMH904に同乗し、巡視船そうやを離船。

午後1時4分、釧路航空基地にて患者を救急車に引渡し、医師等同乗のうえ釧路労災病院へ搬送されました。なお、午後2時10分、釧路労災病院を出発した医師、看護師は、午後3時3分、千歳航空基地所属の航空機MA861に同乗して、釧路航空基地を出発。午後4時20分函館空港に帰着し洋上救急を完了しました。

【発生位置】 釧路港東北東約430海里  
 【傷病者】 男性49歳(フィリピン国籍 甲板手)  
 【傷病名】 脳出血  
 【出動医療機関】 北海道社会事業協会函館病院(医師1名、看護師1名)  
 【出動勢力】 釧路海上保安部 巡視船そうや  
 第一管区海上保安本部千歳航空基地 航空機MA861  
 同 釧路航空基地 ヘリコプターMH904  
 同 函館航空基地 機動救難士2名



傷病者吊上げの状況



巡視船そうや船内で傷病者を救急治療する医師等

## 海上自衛隊救難飛行艇による、貨物船から厚木基地への搬送

平成29年9月9日 02:52発生

平成29年9月8日午後9時46分、米国からベトナム向けのスイス船籍貨物船から、「一等航海士が数日前から悪寒、咳、だるさを訴え呼吸も浅く、グルコースによりよくなったが、再び悪くなり、眼も黄色で、足がもつれる」旨、横浜保土ヶ谷中央病院からの医療指示により洋上救急の要請がありました。10日午前1時42分海上自衛隊岩国基地所属の救難飛行艇US-2に医師2名、看護師1名及び東京検疫所検疫官1名が同乗し、厚木基地を出発。午前5時57分救難飛行艇US-2に傷病者を収容し、午後0時25分厚木基地に到着後、救急隊に引継ぎました。

【発生位置】 小笠原諸島父島西1,000海里  
 【傷病者】 男性59歳(ロシア国籍 一等航海士)  
 【傷病名】 貧血  
 【出動医療機関】 東海大学医学部付属病院(医師2名、看護師1名)  
 【出動勢力】 海上自衛隊岩国基地 救難飛行艇US-2  
 支援機 P-1



海上自衛隊救難飛行艇US-2から救急車への引継ぎの状況



救難飛行艇US-2の機内での医師による処置 (写真提供:海上自衛隊)

## 傷病者を医師同乗の巡視船に収容後、海上保安庁のヘリコプターで陸上まで搬送

平成29年9月21日 12:00発生

平成29年9月21日午後1時5分、船舶代理店から「台湾漁船船長が昨夜から容態が悪化し、ろれつが回らない等の症状から医療助言を求めたところ脑梗塞または脳溢血の疑いから早期に医療機関での受診が必要との助言があった」として、洋上救急の要請がありました。午後4時37分、医師1名が釧路海上保安部巡視船えりもに乗船し、22日0時40分、傷病者を巡視船えりもに収容、医師による診察を開始しました。午前5時10分、釧路航空基地所属のヘリコプターMH904に医師及び患者を引き継ぎ釧路向け出発。午前5時55分釧路航空基地に到着。患者は医師同乗の救急車にて釧路労災病院へ搬送されました。

- 【発生位置】 釧路沖南東約280海里
- 【傷病者】 男性58歳(台湾籍 船長)
- 【疾病名】 くも膜下出血の疑い
- 【出動医療機関】 市立釧路総合病院(医師1名)
- 【出動勢力】 釧路海上保安部巡視船えりも  
第一管区海上保安本部釧路航空基地 ヘリコプターMH904  
巡視船えりも 潜水士1名



巡視船内での医師による処置



釧路航空基地にて救急隊へ引継ぎの状況



急患を海上自衛隊救難ヘリコプターUH60への吊り上げ  
(写真提供:海上自衛隊)



航空機内での医師による処置

## 海上自衛隊ヘリコプターと海上保安庁航空機が連携し、漁船乗組員を搬送

平成29年9月23日 17:54発生

平成29年9月23日午後5時54分、硫黄島付近にて操業中の和歌山県船籍漁船から「船長が昼間に黒い下痢をし、夕方吐血したため、横浜保土ヶ谷中央病院の医療指示を受けた」として、洋上救急の要請がありました。24日午前5時53分、海上自衛隊硫黄島基地所属のヘリコプターUH-60Jにより傷病者を吊上げ収容。午前6時11分硫黄島にて海上自衛隊から医師2名同乗の羽田航空基地所属の航空機LAJ501に移乗し、午前8時24分、東京消防庁救急隊に引き継ぎ日本医科大学付属病院へ搬送されました。

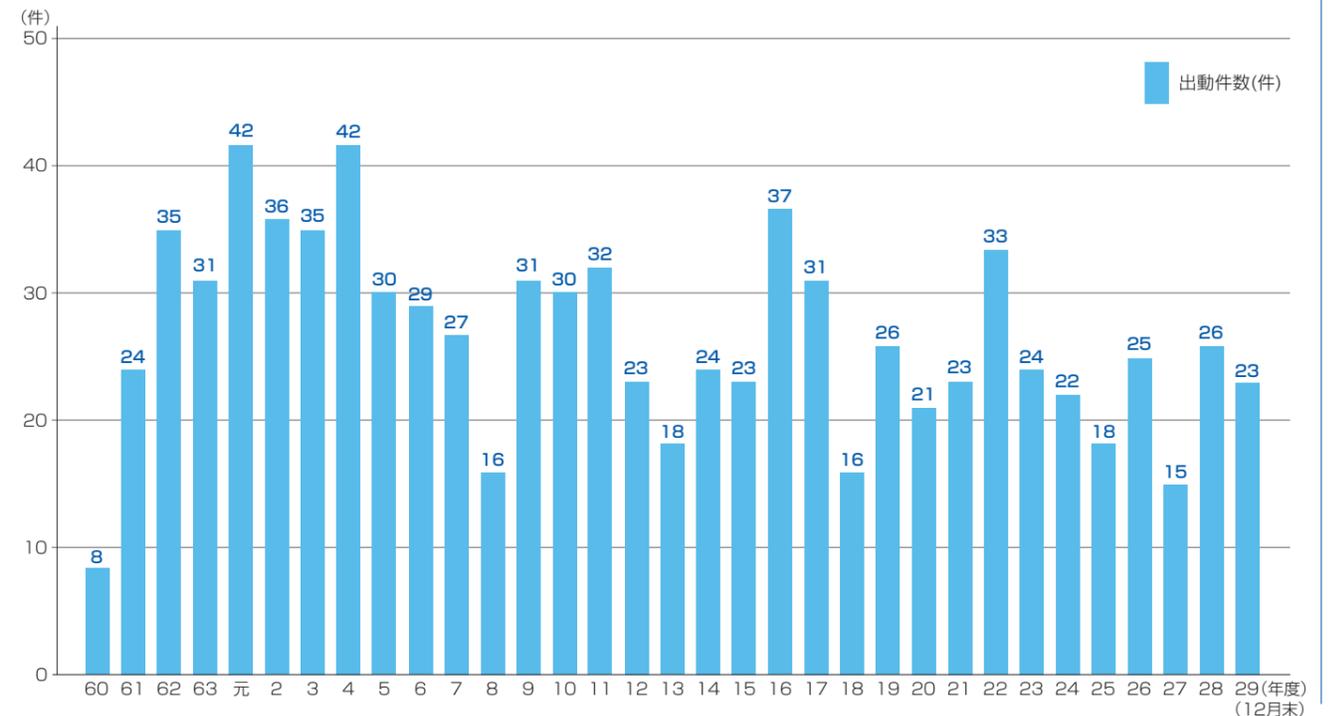
- 【発生位置】 硫黄島付近海域
- 【傷病者】 男性46歳(日本国籍 船長)
- 【疾病名】 消化管出血
- 【出動医療機関】 日本医科大学付属病院(医師2名)
- 【出動勢力】 第三管区海上保安本部羽田航空基地 航空機LAJ501  
特殊救難隊員2名  
海上自衛隊硫黄島基地 救難ヘリコプター UH60-J

## ■その他主な洋上救急の状況

(平成29年12月31日現在)

発生日時	発生位置	傷病者	状況
平成29年7月24日(03:55)	屋久島西約44海里 北緯30度12分 東経129度33分	男性 84歳 乗客 中国 (傷病名) 上部消化管出血	平成29年7月24日午前3時55分、船舶代理店から「宮崎県油津港から上海向け航行中のバハマ船籍客船から、乗客の84歳中国人男性の消化管上部から出血があり、現在、乗船中の医師により輸血中」とのことで洋上救急の要請を受けた。第十管区海上保安本部鹿児島航空基地所属のヘリコプターMH977が鹿児島市谷山ヘリポートで午前6時6分、米盛病院医師1名、看護師1名同乗のうえ出動、午前6時45分該船と会合、午前7時19分吊上げ完了し、午前8時3分、米盛病院のヘリポートに着陸し、患者を同病院に引継いだ。
平成29年7月24日(08:00)	立目埼北約4km 北緯31度06分 東経130度39分	男性 45歳 船長 韓国 (傷病名) 意識消失(呼吸苦)	平成29年7月24日午前8時30分頃、香港船籍タンカーから「現在本船は、喜入向け山川港沖を航行中、船長が心臓停止しており現在心肺蘇生を実施中である。洋上救急を要請する。」旨の連絡があった。午前9時32分第十管区海上保安本部鹿児島航空基地所属のヘリコプターMH977にて医師1名、看護師1名同乗し、米盛病院出発、午前9時45分該船に到着し、機動救難士により傷病者吊上げ収容。午前10時18分米盛病院のヘリポート到着。なお、傷病者は午前11時52分死亡が確認された。
平成29年8月9日(10:05)	硫黄島付近海域 北緯24度46分 東経141度17分	男性 67歳 機関士 日本 (傷病名) 脳室穿破	平成29年8月9日午前10時5分 海上自衛隊から「硫黄島付近で工事中の静岡県船籍作業船で作業員1名が意識不明となっている。作業船からの救助は海自ヘリで行う予定。硫黄島からの搬送をお願いしたい」旨の連絡あり。また、午前11時作業船の船主より洋上救急の依頼があった。午前11時49分海上自衛隊硫黄島基地所属のヘリコプターUH-60Jにより該人を吊上げ収容し、午後0時17分硫黄島到着。午後0時40分、第三管区海上保安本部羽田航空基地所属の航空機LAJ501に日本医科大学付属病院の医師2名及び特殊救難隊3名が同乗し、羽田空港を出発し、午後2時30分硫黄島に到着。海上自衛隊から該人及び付添い人1名を引き継ぎ、午後5時、羽田空港に到着し、東京消防庁救急隊に引継いだ。
平成29年11月15日(15:00)	南鳥島北東海域 北緯27度44分 東経157度24分	男性 28歳 船員 インドネシア (傷病名) 鼠径ヘルニア	平成29年11月15日15時頃、南鳥島北東方を航行中の台湾漁船乗組員が腹痛を訴え、台湾の医療機関に医療指示を受けたところ、早急な医療機関での受診が必要であるとのことから16日午後4時40分同船から台北駐日経済文化代表処經濟部経由で海上保安庁を経由して洋上救急の要請があった。17日午前2時15分、海上自衛隊岩国基地所属の救難飛行艇US-2に東海大学医学部付属病院医師2名、看護師1名及び検疫官1名が同乗し厚木基地を出発。午前4時55分救難飛行艇US-2現場海域着、午前6時30分傷病者の収容完了。午前6時45分救難飛行艇US-2が現場海域を離水し、午後1時26分、海上自衛隊厚木基地に到着し、東京消防庁救急隊に引継いだ。

## ■洋上救急の年度別出動実績



# 地方支部の活動状況等



## 地方支部洋上救急支援協議会の総会等が開催されました。

洋上救急事業を支援するため、全国に13の洋上救急支援協議会が設置されています。昨年8月以降、これまでに6ヶ所の洋上救急支援協議会総会が開催され、それぞれ平成28年度事業報告等活動報告のほか、平成29年度事業計画や役員を選任等について審議されるとともに、洋上救急功労者の会長表彰等が行われました。

### ■八戸地区洋上救急支援協議会及び20周年記念式典

(平成29年8月28日 16:00～八戸プラザホテル)

洋上救急支援協議会総会終了後に、11年にわたり八戸市洋上救急支援協議会会長を勤めてこられた小林眞八戸市長に向田理事長から日本水難救済会会長表彰が伝達されるとともに、引き続き行われた「八戸市支援協議会20周年記念式典」において『戦後の日本の復興・発展を支えた船員たちの悲願、洋上救急』と題して向田理事長による「20周年記念講演」が行われました。



会長表彰の感謝状伝達及び20周年記念講演を行う日本水難救済会向田理事長

### ■南九州地区洋上救急支援協議会

(平成29年8月17日 11:00～鹿児島県水産会館)



南九州地区洋上救急支援協議会総会後に米盛病院福岡医師に対して会長表彰の感謝状を伝達する日本水難救済会菊井常務理事

### ■日本海中部地区洋上救急支援協議会

(平成29年10月17日 11:00～ANAクラウンプラザホテル新潟)



洋上救急支援協議会総会の模様(上)と同総会で挨拶を行う戸田協議会会長(右)

# 洋上救急慣熟訓練

洋上救急出動の要請を受け、医師や看護師は慣れない巡視船や航空機に乗り込んで遥か洋上まで出動し、厳しい自然条件の中、巡視船・航空機の動揺、振動、騒音などの悪条件のもとで救命治療を行うことになります。

このため、全国各地で慣熟訓練を行い、多数の医師、看護師に参加して頂き、航空機等に実際に搭乗して機

内の状況、救命資機材の確認や応急処置訓練を行うなど現場の状況を事前に体験し、出動に備えています。

平成29年度の慣熟訓練は8月以降これまでに、宮城地区(東北地方支部)、鹿児島地区(南九州地方支部)、七尾地区(日本海中部地方支部)、釧路地区(道東地方支部)、三重、愛知地区(東海地方支部)、石垣地区(沖縄地方支部)、大阪地区(関西・四国地方支部)の9地区において開催され、20医療機関、医師25名、看護師23名が参加しています。今回は11月までに実施された慣熟訓練の様子を紹介します。

## 宮城地区 (東北地方支部) (H29.8.5実施)



傷病者収容後のヘリコプター機内の説明



巡視船ざおうにて訓練終了後の記念撮影

## 鹿児島地区 (南九州地方支部) (H29.9.25及び29.10.5実施)



巡視艇船内外設備の説明を受ける医師等



洋上救急の概要説明を受ける医師等

## 七尾地区 (日本海中部地方支部) (H29.9.25実施)



洋上救急の概要説明を受ける医師等



病院屋上でヘリコプターに搭乗する医師等

## 釧路地区 (道東地方支部) (H29.10.30実施)



訓練検討会の様子



傷病者収容後のヘリコプター機内の説明

## 三重・愛知地区 (東海地方支部) (H29.11.15～16実施)



中部空港海上保安航空基地にて記念撮影(三重地区)



訓練検討会(愛知地区)の様子



ヘリコプターからの搬送訓練(三重地区)

# レスキュー41～地方水難救済会の現状 (シリーズ⑦)

水難救済を通じて社会的要請に的確に応えていくための取り組みとして水難救済への思いを同じくする仲間において情報を交換し、意識の高揚を図るために平成27年(2015年)1月から「レスキュー41～地方水難救済会の現状」として地方組織について紹介を開始しております。

今回は、特定非営利活動法人 神奈川県水難救済会及び鹿児島県水難救済会を紹介致します。

## 特定非営利活動法人 神奈川県水難救済会

### 1 設立年月日

平成13年9月17日

### 2 所在地

〒236-0051 神奈川県横浜市金沢区富岡東2-1-22

神奈川県漁業協同組合連合会内

☎045-775-0321

◎交通案内

・公共交通機関

シーサイドライン南部市場駅 徒歩約5分

### 3 役職員の数

会長 牧島 功(神奈川県議会議員)

副会長 太田 議(神奈川県漁業協同組合連合会副会長)

副会長 久保田源太郎(小田原市漁業協同組合副組合長理事)

その他の役員6名(理事5名、監事1名)



牧島 功 会長



特定非営利活動法人  
神奈川県水難救済会が入居する  
神奈川県漁業協同組合連合会

### 4 沿革・歴史等

明治31年	府県の地方委員部の一つとして、 神奈川県支部を設置	平成10年10月28日	神奈川県水難救済会設立総会を開催し、平成10年10月1日付で社団法人日本水難救済会神奈川県支部から神奈川県水難救済会へ移行。 柴、横須賀、走水大津、鴨居、久里浜、北下浦、南下浦、三浦、長井、大楠、腰越、大磯、小田原、真鶴、観音崎の15救難所及び大磯二宮支所が正会員となる。
明治38年 3月18日	三崎救難所設置	平成13年 4月 1日	平塚市救難所設置
昭和 7年 1月15日	横浜救難所設置	9月19日	神奈川県水難救済会から特定非営利活動法人 神奈川県水難救済会へ移行
昭和10年 7月 1日	支部規則改定により、委員部制を改め神奈川県支部を設置	平成15年 6月30日	大磯救難所二宮支所廃止
昭和32年 9月12日	真鶴救難所設置	平成17年 4月 1日	葉山救難所設置
昭和33年10月 1日	三崎救難所を三浦救難所に改称	平成19年 4月 1日	福浦救難所、西神奈川広域救難所設置
昭和34年 8月11日	川崎救難所、横浜柴救難所設置	平成23年 4月 1日	逗子救難所設置
昭和35年 8月16日	鴨居救難所、腰越救難所、 長井救難所設置	平成24年 8月 1日	茅ヶ崎救難所設置
昭和36年11月17日	大磯救難所設置	平成28年 3月24日	二宮救難所設置
昭和39年 6月25日	久里浜救難所、横須賀救難所、 北下浦救難所設置		
昭和40年 6月24日	大楠救難所設置		
昭和42年 3月18日	小田原救難所設置		
昭和44年 3月19日	横須賀救難所に走水大津支所を設置		
昭和47年10月16日	走水大津支所を救難所に昇格		
昭和48年 3月20日	川崎救難所廃止		
昭和54年 2月19日	南下浦救難所設置		
昭和57年 3月24日	大磯救難所に二宮支所を設置		

### 5 救難所・支所の数 (平成29年9月末日現在)

救難所:22箇所 救難所員数:1,025名



新年早々に行われる海難救助訓練の様子

### 6 地域の特性等

神奈川県は関東平野の南西部にあり、東に東京湾、南は相模灘に面して北は東京都に接しています。

東部は都市化の進んだ横浜・川崎が中心であり、西部は丹沢・箱根等の緑豊かな山なみとなります。相模川を中心とした中部、美しい海岸線の連なる湘南・三浦半島など多様性に富んだ土地柄です。海岸は東側の東京湾沿岸と南側の相模灘沿岸に区分され、東京湾沿岸内湾部はそのほとんどが港湾施設として利用されて、我が国最大の経済活動拠点として中枢を形成しており、加工貿易港として産業を支えている川崎港、全国有数の取扱量を誇る横浜港や海岸線の入り組んだ天然の良港である横須賀港など特徴的な首都圏の港湾が存在します。また、相模灘沿岸は太平洋に面した変化に富んだ自然海岸が多く残されており、沿岸漁業も盛んで、海水浴・海洋スポーツ等のレクリエーション活動の場でもあります。

海洋生態の学習環境としては、水族館・漁業体験活動による自然学習環境が備わっております。相模湾奥部に位置する大磯海岸は明治時代における我が国の海水浴発祥の地として、また、江の島(湘南港)は1964年の東京オリンピックのヨット競技の拠点として存在してきた歴史があり、2020年の東京五輪にはセーリング競技が開催予定です。

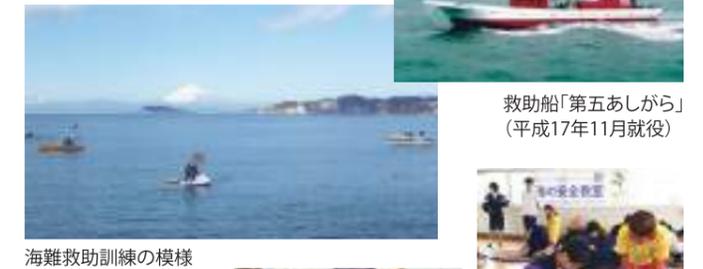


### 7 主な保有資器材

AED8台、双眼鏡1個、トランシーバー10台、心肺蘇生法教育人体モデル2体、救命索発射装置17式

### 8 保有救助船

6隻(水上バイク1台含む)  
各救難所の救助可能船舶等(315隻)



救助船「第五あしがら」  
(平成17年11月就役)

海難救助訓練の様相

### 9 活動状況

#### (1) 救助実績(平成28年度)

救助出動回数 14回 出動所員数 54名 出動船舶数22隻  
救助人数 17名 救助船舶数 5隻

#### (2) 海難救助訓練等の実施状況(平成28年度)

- ①若者の水難救済ボランティア教室(平塚救難所:参加人員116名)
- ②平成28年度津波対策訓練(逗子救難所:参加人員11名)
- ③ビックレスキューかながわ(久里浜救難所:平成28年度神奈川県・横須賀市合同防災訓練/参加人員5名)
- ④平成28年度救命講習会(葉山救難所:参加人員37名)
- ⑤神奈川県水難救済会西部地区水難救助訓練(西部地区11救難所/参加人員223名)



「海の安全教室」での救命講習の様子

### 10 主に力を入れている事業

#### (1) 水難救済思想の普及

自らの安全意識の向上を図り、海難事故を防止するとともに、海難事故に対する救助方法を学習し、救助ボランティア活動の存在と重要性の認識を深めている。

#### (2) 水難救助の訓練

水難事故発生時に迅速な救助活動が出来る様な救難所の合同訓練及び自主訓練並びに救命講習会を実施して適切な救助技術の習得を図っている。また、国・県・地方自治体等の防災機関が主催する災害支援活動訓練に参加して自衛隊・警察・消防との連携を図っている。

#### (3) 青い羽根募金活動の推進

ボランティア活動の財源として、青い羽根支援自販機の更なる促進及び青い羽根募金強化月間における県議会・県庁・各地方自治体での募金活動や各種イベント(ザブラスクルーズチャリティコンサート)(腰越漁協みなとまつり)での募金活動及び常設募金箱の設置による募金活動等を積極的に推進している。



設置されている支援自販機

# 鹿児島県水難救済会

## 1 設立年月日

平成12年4月1日

## 2 所在地

〒890-0064 鹿児島県鹿児島市鴨池新町11-1  
鹿児島県水産会館3F 鹿児島県漁業協同組合連合会内

☎099-253-7811

◎交通案内

・公共交通機関

鹿児島市営バス12番線「県庁前」徒歩5分

JR指宿枕崎線「南鹿児島」徒歩約20分

鹿児島市市電「涙橋」徒歩約20分



鹿児島県水難救済会の事務局が入居する  
鹿児島県水産会館



野村義也 会長

## 3 役員の数

会長 野村 義也(鹿児島県漁業協同組合連合会 代表理事会長)

副会長 八坂 俊輔(西之表市救難所長)

同 伊地知実利(和泊救難所長)

同 岩切 秀雄(薩摩川内市川内救難所長)

その他役員8名(理事6名、監事2名)

## 4 沿革・歴史等

明治44年10月 2日 鹿児島県委員部、枕崎救難所設置  
昭和10年 7月 1日 日本水難救済会支部規則の改定により委員部制を改め、日本水難救済会鹿児島県支部を設置  
平成 7年 1月31日 与論救難所設置  
平成 9年 1月14日 西之表市救難所設置  
30日 知名救難所、和泊救難所設置  
平成10年 7月 7日 喜界救難所設置  
平成11年 1月21日 里村(薩摩川内市里)救難所設置  
7月 7日 下甌村(薩摩川内市下甌)救難所設置  
8月12日 天城救難所設置  
10月18日 上甌村(薩摩川内市上甌)救難所設置  
11月11日 笠沙町(南さつま市笠沙町)救難所設置  
平成12年 4月 1日 鹿児島県水難救済会を設立  
これまで活動していた与論、西之表市、知名、和泊、喜界、里村、下甌村、天城、上甌村、笠沙町各救難所設置  
平成12年6月1日~ 同年11月1日までの間  
川内(薩摩川内市川内)救難所、阿久根市救難所、串木野(いちき串木野)救難所、鹿島村(薩摩川内市鹿島)救難所、伊仙救難所設置  
平成13年4月1日~ 同年12月27日までの間  
東市来・日吉救難所、龍郷救難所、住用救難所、笠利町救難所設置  
平成14年1月1日~ 同年12月24日までの間  
宇検村救難所、上屋久町救難所、大和救難所、名瀬市救難所、瀬戸内救難所、徳之島町救難所、大根占(錦江町大根占)救難所、開聞町(指宿市開聞)救難所、屋久町救難所、山川(指宿市山川町)救難所設置

平成15年2月1日~ 同年10月1日までの間  
垂水市救難所及び同救難所垂水支所、牛根支所を設置、指宿(指宿市)救難所、十島村救難所、隼人町救難所(霧島市隼人救難所に名称変更のち霧島市救難所)設置  
平成16年 2月1日~ 同年 9月1日までの間  
佐多町(南大隅町佐多)救難所、根占(南大隅町根占)救難所設置  
平成17年 7月20日 三島村救難所設置  
8月 1日 南九州市救難所設置  
平成18年 8月 1日 肝付町救難所設置  
平成19年 3月19日 住用、笠利町、名瀬市の3救難所を合併し、奄美(奄美市)救難所及び同救難所に住用、笠利町、名瀬の3支所を設置  
5月 1日 枕崎救難所設置  
8月 6日 鹿屋市救難所設置  
平成20年 4月 1日 笠沙町救難所を廃止し、南さつま市救難所を設置、同救難所に笠沙、加世田、坊津の3支所を設置  
7月 3日 鹿児島市救難所設置  
平成21年 4月 1日 志布志市救難所設置  
平成22年 4月 1日 上屋久町と屋久の2救難所を合併し、屋久島町救難所設置  
平成23年 4月 1日 出水市救難所、長島町救難所設置  
8月 1日 南種子町救難所設置  
平成24年 6月 1日 東串良町救難所設置

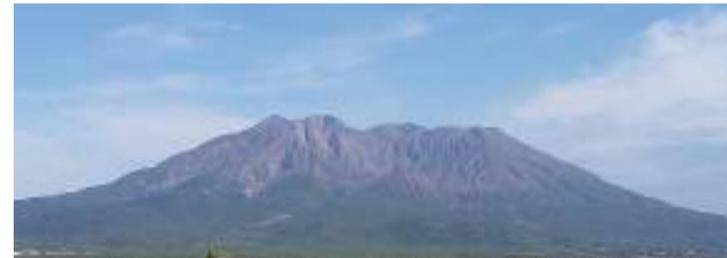
注)平成16年から18年にかけて、鹿児島県では市町村合併が行われたことから、救難所の名称が変更された。  
( )内は現在の名称。

## 5 救難(支)所・支所の数 (平成29年12月1日現在)

救難所:43箇所 支所:11箇所 救難所員数:7,125名

## 6 地域の特性等

鹿児島県は、日本の西南部にあり、面積は約9,187平方メートルで九州の中では1番面積の広い県です。南北に西日本火山帯が縦走しており、桜島など活発な火山活動が見られるほど、自然環境の厳しい地域であります。盛んに漁業活動が行われているのははじめ、磯釣り、海水浴といったマリッジやスキューバダイビング等の活動も活発におこなわれています。その反面、様々な海難事故が発生している海域であることから、なお一層、市町村をはじめ海上保安部等と連携をとり水難救助活動にある必要があります。



鹿児島市内から見た桜島

## 7 主な保有資器材

安全帽60個、救命胴衣200着、救命浮環70個、携帯拡声器50台、トランシーバー10台、双眼鏡10個など

## 8 保有救助船

約100隻

## 9 活動状況

### (1) 救助実績(平成28年度)

救助出動件数 14件  
救助員出動人数 101名  
救助出動船舶 30隻

### (2) 海難救助訓練等の実施状況(平成28年度)

溺者救助訓練・連携溺者救助訓練  
孤立者救助訓練・漂流者救助訓練

## 10 主に力を入れている事業

### (1) 救難所員の救助技術向上

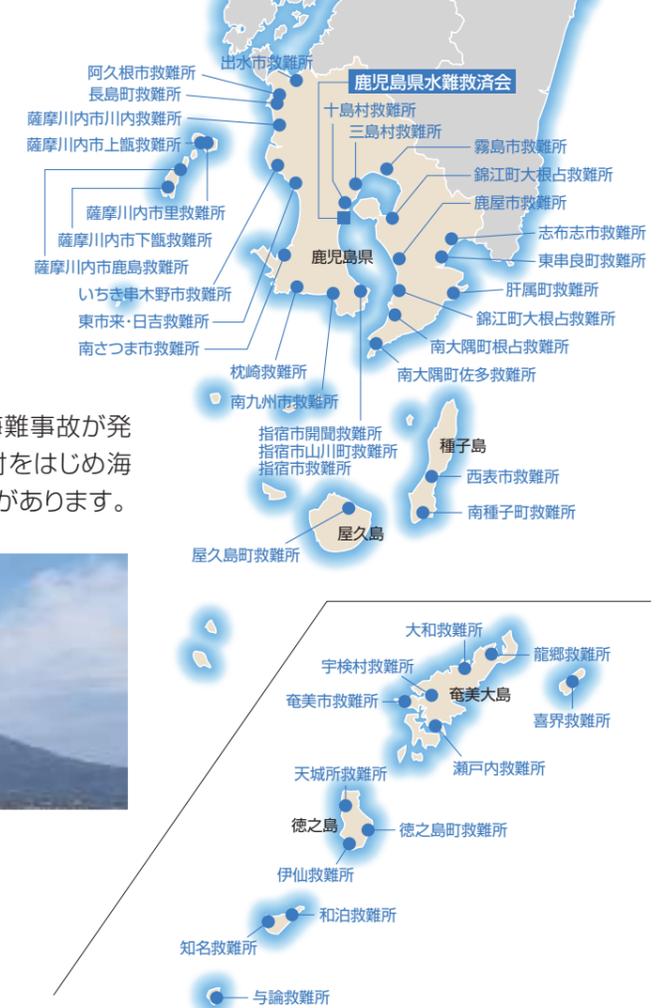
救助員数7,000名を越える当会は、ボランティアで行う救助作業を安全に行えるよう救助員の救助技術の維持向上を目的として、海上保安部等の指導を仰ぎながら各救難所が主体となった沿岸海難救助訓練を推進している。

### (2) 海上保安部等との連携と円滑な救難所の活動

各救難所事務担当者を年1回招集して会議を開催し、当会の事業説明や海上保安部等と連携した最近の救助活動等について事例紹介を行い、円滑な救難所の活動を推進している。

### (3) 青い羽根募金活動の推進

毎年7月から8月の青い羽根募金強調運動期間では、水難救助事業にご理解頂いている個人・企業から青い羽根募金の協力を頂いており、これの継続及び広く県民の皆様にご協力頂けるよう青い羽根募金活動を実施している。また、広く一般市民へ募金を呼びかける目的で「青い羽根募金支援自販機」の設置を推進している。(設置台数9台/平成28年度末現在)



海難救助訓練の様子



もやい銃による救難訓練



海上保安庁と救助員との連携による溺者救助訓練



「海の安全教室」で救命胴衣着用体験

## (公社)日本水難救済会 平成29年度第2回通常理事会開催

平成30年度の日本財団への助成金及び日本海事センターへの補助金等の申請などの議案が審議されました。

平成29年10月19日、東京・麹町の本会が入居している海事センタービル4階会議室において、平成29年度第2回通常理事会が開催されました。

はじめに、議長である日本水難救済会相原会長の挨拶とご臨席の奥島海上保安庁警備救難部長からご挨拶をいただき、その後、議案審議となりました。議案は、第1号議案「平成30年度日本財団及び日本海事センター等に申請する予算(案)について」第2号議案「新規会員入会の承認について」について審議され、それぞれ異議なく承認されました。

なお、第1号議案では、平成30年度予算の全体計画案及び公益財団法人日本財団、公益財団法人日本海事センター及び日本郵便株式会社に申請する助成金、補助金について、それぞれ申請内容の説明を行ったほか、「水難救済思想の普及事業」の一環として実施する「海の安全教室」に関して、日本財団の「海と日本PROJECTサポートプログラム」への参画について、海上保安庁などとの調整の結果、助成申請が具体化すれば、来年に助成申請を行うこと及びその結果を3月に予定している第3回通常理事会において報告する旨の説明がなされました。

- 議案審議の後、報告事項として
- (1) 職務の執行状況の報告について
  - (2) 初の世界海上保安機関長官級会合における本会の紹介について
  - (3) 2017年度JICA課題別研修「救難・環境防災」研修における本会職員による講義について

の3件について、それぞれ報告がなされ、その後、議長が意見等を求めたところ、特に質疑等はなく、平成29年度第2回通常理事会の議案審議は終了となりました。



理事会冒頭に挨拶を行う相原会長(右は菊井常務理事)



奥島海上保安庁警備救難部長のご挨拶(左は増田救難課長)



理事会の模様

## 2017年度JICA課題別研修「救難・環境防災」研修で本会職員による講義

日本水難救済会職員が東南アジア諸国等の海上における救難・環境防災担当職員に対して、本会の事業について講義をおこないました。

平成29年10月5日、独立行政法人国際協力機構横浜国際センター(JICA横浜)の委託を受けた公益財団法人海上保安協会から依頼を受けて、同センターにおいて、海上保安実務者として最も基本的な業務である船舶事故及び人身事故に対する救助活動及び防災業務について、専門的な知識・能力の向上を図ることを目的とした2017年度JICA課題別研修「救難・環境防災」研修が開催された。本会職員は、その救難分野の一部の講義を行うため講師として、主に海難救助・海上防災・環境保全に従事する東南アジア諸国等の海上における救難・環境防災担当職員17名の研修生に対し、日本水難救済会の沿革をはじめ、水難救済事業、洋上救急事業及び青い羽根募金事業の概要について、英文資料ならびに洋上救急事業広報用和英パンフレットを配布するとともにパワーポイント及び英語版DVDを用いて講義しました。



講義を聴講する研修生の皆さん



洋上救急英語版DVD



海難救助等について英文資料により説明する戸田第二事業部長



洋上救急についてパワーポイントにより説明する鈴木第三事業部長

## MRJ フォーラム 投稿

### 熊本地震から復興

熊本県水難救済会

～新事務所落成・「青い羽根募金支援自販機」新設～

秋晴れの空の下、熊本地震で被災した熊本県漁業協同組合連合会(熊本県漁連)の新事務所・施設が平成29年11月9日、熊本市西区中原町に落成した。これに合わせ、熊本県水難救済会の「青い羽根募金支援自販機」も新たに披露された。

海難救助ボランティアを任務とする熊本県水難救済会は、熊本県漁連に事務局を置いている。同漁連の旧事務所・施設は、熊本地震により半壊の被害を受け、仮設事務所への移動を余儀なくされていた。地震から約1年7ヶ月、待ちに待った新事務所・施設がついに落成した。

青い羽根募金支援自販機の設置は、新事務所・施設の落成記念にと熊本県漁連とコカ・コーラウエスト(株)が協力・企画して実現させた。熊本県水難救済会は、熊本県内各所に9つの救難所を運営しているが、この救難所の財政基盤として青い羽根募金がある。

今回設置された「青い羽根募金支援自販機」は、この募金活動を強力に支援する手段の一つだ。

上田熊本県水難救済会会長と赤松熊本海上保安部長も早速同販売機でジュースを購入。募金に貢献するとともに、新事務所・施設落成の祝杯を挙げた。上田会長は「新事務所・施設落成と自販機の設置、非常に喜ばしい。心機一転、今後も熊本海上保安部と熊本県水難救済会が強力に連携し、県内の海難救助体制を推進していきたい。」と話した。



新しくなった熊本県漁業協同組合連合会事務所



右から赤松宏樹熊本海上保安部長、上田浩次熊本県水難救済会会長、古賀雄一郎熊本海上保安部警備救難課救難係長

## 平成29年度 第1回互助会理事会開催

互助会の平成28年度事業報告及び収支決算(案)並びに平成29年度事業計画及び収支予算(案)が審議されました。

平成29年10月19日、海事センタービル4階会議室において日本水難救済会救難所員等互助会の平成29年度第1回理事会が開催されました。

開催にあたり互助会議長の相原会長である挨拶のあと、次の議案について審議され、それぞれ異議なく承認されました。

第1号議案 平成28年度事業報告及び収支決算(案)について

第2号議案 平成29年度事業計画及び収支予算(案)について

なお、理事から互助会の加入率が40%弱に留まっていることについて質問があり、向田理事長からその推定される要因や背景等について説明がなされ、そのうえで、全国の救助員の互助会に対する理解の増進及び互助会への加入促進を図るため、できるだけ救助員に届く形で関連情報の提供に努めていく旨の考えが示された。



挨拶を行う相原会長左から向田理事長、相原会長、菊井事務局長(常務理事)



第1回互助会理事会の様相(手前から右まわりに福田理事、山田理事、武井理事、向田理事長、相原会長、菊井事務局長(常務理事)、小川会計監査役、小島会計監査役)

### 【1号議案】平成28年度事業報告及び収支決算(案)について

平成28年度事業報告(平成28年10月1日から平成29年9月30日まで)

互助会は、日本水難救済会の正会員となっている地方水難救済会に所属する救難所員等(役職員を含む。)で、入会希望する者(会員)で構成され、会員及びその家族(会員等)の相互救済と福利増進を図る観点から各種事業を行うことにより、会員等の生活の安定と福祉に寄与するとともに、日本水難救済会の効率的な事業運営に資することを目的として事業を実施した。

#### [1]加入者数について

平成28年度末の加入者数は、20,768人(全国の救助員全体の約39.7%、前年度比56名減)であった。

#### [2]災害給付及び見舞金給付事業

##### (1)災害給付事業

会員が水難救助業務中に災害を受けた場合に、本人又はその遺族に対して互助会規約の定めるところにより所定の給付を行い、また、会員が前記の災害により死亡した場合に、2万円を限度として花輪又は生花を遺族に贈るための事業であるが、28年度において該当する事例はなかった。

##### (2)休業見舞金給付事業

会員が水難救助業務中に負傷し又は疾病にかかり、従前得ていた業務上の収入を得ることができな

い場合に、規約の定めるところにより、所定の見舞金を給付するための事業であるが、28年度において該当する事例はなかった。

##### (3)私物等損害見舞金給付事業

会員が水難救助業務中に、当該業務の遂行中に携帯していた私物を破損、焼失、紛失した場合並びに当該業務中に使用していた船舶の船体・属具を破損等した場合、規約の定めるところにより、所定の見舞金を給付するための事業であり、28年度においては、1件 34,188円を本会から給付した。

##### 【給付の内容】

高知県水難救済会安芸救難所員が漂流物(乗り上げ事故船残骸)を自船にて、他船の衝突を回避するため曳航した。その際、漂流物が目視で確認した以上に大きかったため、自船の一部に破損が生じた。

##### (4)遺児等育英奨学金事業

災害給付を受けた会員の遺児(重度の後遺症を負った会員の子で、遺児と同等と認められる者を含む。)に対し、規約の定めるところにより、所定の奨学金を給付又は、貸与するための事業であるが、28年度において該当する事例はなかった。

##### (5)災害見舞金給付事業

会員が自然災害又は火災等により、住居及び家財又はそれらのいずれかに被害を被った場合、規約の定めるところにより、所定の見舞金を給付するための事業であるが、28年度において該当する事例はなかった。

##### (6)互助会誌発行事業

互助会の事業成果、決算報告の会員への周知等ため、互助会誌を発行する事業であるが、28年度においては、「マリレスキュージャーナル」に互助会の

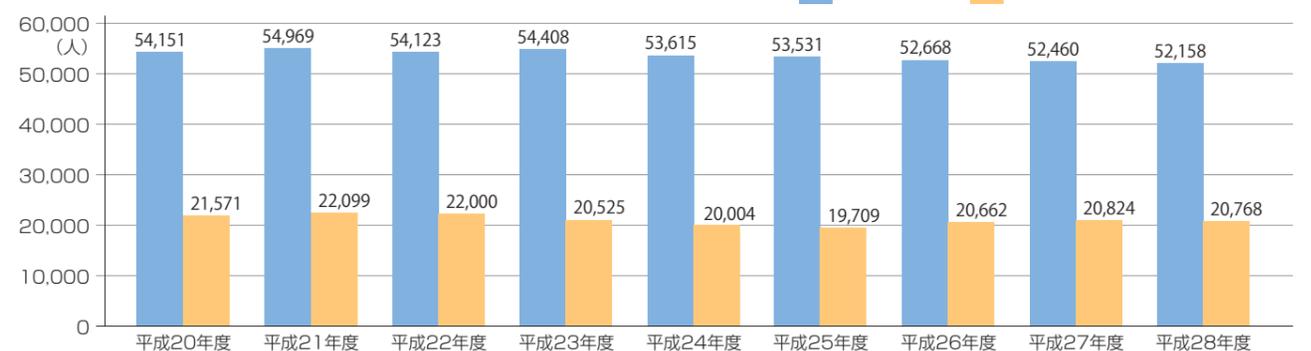
コーナーを設け、2017年1月号に平成28年度第1回理事会開催概要、平成27年度事業報告及び収支計算書、平成28年度事業計画及び収支予算書を掲載し、また、2017年8月号に平成28年度第2回理事会開催概要、互助会の現状、入会案内、事業の内容等について掲載し、全員に周知した。

なお、全国の救助員の互助会加入率が40%弱に留まっていることに鑑み、一人でも多くの救助員の互助会への加入促進を図るため、平成29年9月26日付の文書を互助会事務局長から全国の地方水難救済会会長あてに発出し、過去の補償事例を添付して互助会加入メリットを分かりやすく説明したうえで、救助員への周知徹底を依頼した。

救難所のみなさんへ!!  
500円で大きな安心を!!



#### ■平成20年度以降の救難所員数と互助会会員数の推移(参考)



注)救難所員数は、各年度末(3月31日)現在であり、互助会加入数は各年度末(9月30日)現在である。

#### 平成28年度互助会収支計算書(平成28年10月1日から平成29年9月30日)

(単位:円)

科目	予算額	決算額	差異
I 事業活動収支の部			
1 事業活動収入			
(1)会費収入	10,500,000	10,385,000	115,000
互助会会費収入			
(2)雑収入	2,006,000	2,576,713	△570,713
受取利息収入	6,000	606	5,394
雑収入	2,000,000	2,576,107	△576,107
事業活動収入計	12,506,000	12,961,713	△455,713
2 事業活動支出			
(1)事業費支出	52,427,000	2,436,828	49,990,172
会誌発行費支出	1,000,000	512,640	487,360
保険料支出	1,890,000	1,890,000	0
互助会給付金支出	49,537,000	34,188	49,502,812
(2)管理費支出	3,390,778	3,438,830	△48,052
人件費支出	1,610,000	1,694,883	△84,883
会議費支出	13,000	25,364	△12,364
旅費交通費支出	200,000	0	200,000
通信運搬費支出	167,000	159,733	7,267
事務費支出	66,000	110,028	△44,028
電算機事務費支出	156,000	150,845	5,155
印刷製本費支出	194,000	347,020	△153,020
光熱水料費支出	25,000	20,342	4,658
賃借料支出	851,000	873,125	△22,125
諸謝金支出	11,000	10,314	686
雑支出	97,778	47,176	50,602
事業活動支出計	55,817,778	5,875,658	49,942,120
事業活動収支差額	△43,311,778	7,086,055	△50,397,833
II 予備費支出	1,000,000	0	1,000,000
当期収支差額	△44,311,778	7,086,055	△51,397,833
前期繰越収支差額	53,274,778	53,274,778	0
次期繰越収支差額	8,963,000	60,360,833	△51,397,833

## 【2号議案】平成29年度事業計画及び収支予算(案)について

平成29年度事業計画(平成29年10月1日から平成30年9月30日まで)

互助会は、日本水難救済会の正会員となっている地方水難救済会に所属する救難所員等(役職員を含む。)で、入会希望する者(会員)で構成され、会員及びその家族(会員等)の相互救済と福利増進を図る観点から各種事業を行うことにより、会員等の生活の安定と福祉に寄与するとともに、日本水難救済会の効率的な事業運営に資することを目的として事業を実施する。

### [1]会員の募集について

平成29年度の会員数は、平成29年10月4日現在で20,166人であり、地方水難救済会の事務処理が遅れている所もあり、前年度並みの会員加入が見込まれる。  
 なお、今後とも、互助会の趣旨を周知する等して引き続き会員の募集に努める。

### [2]災害給付及び見舞金給付事業等

#### (1)災害給付事業

会員が水難救助業務中に災害を受けた場合に、互助会が保険会社と保険契約を締結して、保険会社から本人又はその遺族に対して互助会規約の定めるところにより所定の給付を行う。  
 また、会員が前記の災害により死亡した場合は、2万円を限度として花輪又は生花を遺族に贈る。

#### (2)休業見舞金給付事業

会員が水難救助業務中に負傷し又は疾病にかかり、従前得ていた業務上の収入を得ることができない場合に、規約の定めるところにより、所定の見舞金を給付する。

#### (3)私物等損害見舞金給付事業

会員が水難救助業務中に、当該業務の遂行中に携帯していた私物を破損、焼失、紛失等した場合、規約の定めるところにより、所定の見舞金を給付する。  
 また、会員が水難救助業務中に、当該業務の遂行中に使用していた船舶の船体・属具を破損した場合、規約の定めるところにより、所定の見舞金を給付する。

#### (4)遺児等育英奨学金事業

災害給付を受けた会員の遺児(重度の後遺症を負った会員の子で、遺児と同等と認められる者を含む。)に対し、規約の定めるところにより、所定の奨学金を給付又は、貸与する。

#### (5)災害見舞金給付事業

会員が自然災害又は火災等により、住居及び家財又はそれらのいずれかに被害を被った場合に損害の程度に応じて、災害見舞金を給付する。

#### (6)互助会誌発行事業

年2回発行のマリンレスキュージャーナルに互助会コーナーを設けて互助会の事業概要、事業成果、決算報告等について、会員への周知を図る。

## 平成29年度互助会収支予算書(平成29年10月1日から平成30年9月30日)

(単位:円)

科目	予算額	前年度予算額	差異	備考
I 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
(1)会費収入				
互助会会費収入	10,500,000	10,500,000	0	21,000人
(2)雑収入	2,000,600	2,006,000	△5,400	
受取利息収入	600	6,000	△5,400	前年度実績額等
雑収入	2,000,000	2,000,000	0	リーマンからの弁済金
事業活動収入計	12,500,600	12,506,000	△5,400	
2 事業活動支出				
(1)事業費支出	52,427,000	52,427,000	0	
会誌発行費支出	1,000,000	1,000,000	0	過去実績額等
保険料支出	1,890,000	1,890,000	0	契約実績額
互助会給付金支出	49,537,000	49,537,000	0	
災害給付事業	2,000,000	2,000,000	0	
休業見舞金給付事業	10,000,000	10,000,000	0	
私物等損害見舞金給付事業	10,000,000	10,000,000	0	
遺児等育英奨学金	10,000,000	10,000,000	0	
災害見舞金給付事業	17,537,000	17,537,000	0	
(2)管理費支出	3,647,573	3,390,778	256,795	前年度実績額等
人件費支出	1,695,000	1,610,000	85,000	
会議費支出	26,000	13,000	13,000	本会への招集会議分担
旅費交通費支出	200,000	200,000	0	
通信運搬費支出	160,000	167,000	△7,000	
事務費支出	111,000	66,000	45,000	
電算機事務費支出	151,000	156,000	△5,000	
印刷製本費支出	348,000	194,000	154,000	
光熱水料費支出	21,000	25,000	△4,000	
賃借料支出	874,000	851,000	23,000	
諸謝金支出	11,000	11,000	0	
雑支出	50,573	97,778	△47,205	
事業活動支出計	56,074,573	55,817,778	256,795	
事業活動収支差額	△43,573,973	△43,311,778	△262,195	
II 予備費支出	1,000,000	1,000,000	0	
当期収支差額	△44,573,973	△44,311,778	△262,195	
前期繰越収支差額	60,373,973	53,274,778	7,099,195	
次期繰越収支差額	15,800,000	8,963,000	6,837,000	



互助会に関する  
問い合わせ

互助会に関する疑問、質問等の問い合わせ先は事務局(経理部)の森又は中山が承ります。  
 電話番号:03-3222-8066 FAX 番号:03-3222-8067 Email:goiyokai@mrj.or.jp

平成29年における会長表彰者は次のとおりです。受章された皆様の益々のご活躍を祈念いたします。

### 1 海難救助功労者

#### (1)救助出動回数功労表彰(32名)

- 北海道海難防止・水難救済センター(7名)  
 20回(登別救難所)工藤昭彦 (三石救難所)木島哲朗 (松前救難所)齊藤俊一郎 (松前救難所松前支所)敦賀健一  
 (松前救難所小島支所)佐藤栄治 (松前救難所江良支所)伊川俊幸、西澤勇二
- 山形県水難救済会(6名)  
 20回(温海救難所)佐藤幸雄、佐藤清八郎 (念珠関救難所)栗田義和 (吹浦救難所)齊藤吉三  
 30回(由良救難所)和田 均  
 50回(加茂救難所)佐藤豊吉
- 茨城県水難救済会(1名)  
 20回(大洗支部救難所)上山 猛
- 千葉県水難救済会(4名)  
 20回(新勝浦市救難所浜行川支所)吉野次郎 (富津岬PW救難所)古賀健一郎  
 130回(九十九里町救難所)成川清子  
 140回(九十九里町救難所)米澤秀夫
- 静岡地区水難救済会(1名)  
 20回(ICS救難所)郡山辰男
- 愛知県水難救済会(1名)  
 30回(蒲郡救難所)福島雅弘
- 兵庫県水難救済会(1名)  
 20回(竹野救難所)與田 勉
- 福岡県水難救済会(4名)  
 30回(大岳救難所)松尾英仁、山田靖之  
 50回(大岳救難所)竹田聖也  
 60回(津屋崎救難所)花田和明
- 長崎県水難救済会(7名)  
 20回(稲佐救難所)石崎鈴雄  
 30回(野母崎救難所)森 泰介 (三重救難所)戸田 恵  
 80回(稲佐救難所)中ノ瀬長一、中村忠雄  
 130回(野母崎救難所)濱田泰明  
 270回(稲佐救難所)宮崎一吉



救助出動回数功労章  
(20回)



救助出動回数功労章  
(50回)



140回出動の場合



勤続功労章(40年)



勤続功労章(30年)



勤続功労章(20年)

#### (2)勤続功労表彰(186名)

- ①40年勤続功労(12名)  
 ○北海道海難防止・水難救済センター(8名)  
 (虻田救難所)阿部和文、菊地新市、森 元司、岡崎慎一、荒 哲雄、赤間陽一  
 (浜厚真救難所)村上隆司、澤口伸二
- 神奈川県水難救済会(4名)  
 (走水大津救難所)菱倉康美、廣川政春、廣川 馨 (北下浦救難所)岩崎一郎
- ②30年勤続(11名)  
 ○北海道海難防止・水難救済センター(6名)  
 (伊達救難所)穴戸良自、岩田和義 (豊浦救難所)加藤幸作  
 (浜厚真救難所)村上俊二、西館純之 (冬島救難所)佐々木健一
- 神奈川県水難救済会(3名)  
 (久里浜救難所)臼井友康、前田悦男 (南下浦救難所)木村俊光
- 島根県水難救済会(2名)  
 (出雲救難所日御崎支所)安喰久重 (出雲救難所鶴鷺支所)米井信治
- ③20年勤続(163名)  
 ○北海道海難防止・水難救済センター(22名)

(豊浦救難所)佐藤 勇 (苫小牧救難所)南 敏之、亀谷秀之、工藤政吉、高島正司、鳥越浩一  
 (奥尻救難所)田中靖彦 (様似救難所)藤田雅勝 (虻田救難所)阿部秀幸  
 (三石救難所)宝金輝史、山崎和彦、大貫勝範、中村義道、高野 司、中村義浩、梶川 徹、馬場欣治、中村一憲、山崎雅彦、  
 宝金茂徳、石井善彦 (冬島救難所)杉本和史

○秋田県水難救済会(2名)  
 (船川救難所)佐藤隆志、船木辰夫

○神奈川県水難救済会(14名)  
 (横須賀救難所)村上義人、石渡雄治、村上敏宏 (走水大津救難所)廣川政信  
 (観音崎救難所)秋澤智信、矢作喜三郎、佐野啓介 (南下浦救難所)吉田 徹、松本洋一、岩野政信、岩野好之  
 (真鶴救難所)青木一隆、青木良寛 (大磯救難所)味沢藤吉

○島根県水難救済会(1名)  
 (出雲救難所日御碕支所)阿部 進

○長崎県水難救済会(144名)  
 (稻佐救難所)福田一幹、榎川文明、中ノ瀬長一、宮崎一俊、原口 猛、町田昌彦、宮地勝、山口光春、一ノ瀬 誠、中村忠雄、  
 下野一成、井手 敏、古川隆靖、海辺 昇、平 恵治、鶴巻 功、中ノ瀬至男、山田次男、宮崎一吉、大町修身、朝海宏昭、  
 中山敬二、山口正法、瀬戸 勉、榎川良治、小澤大助 (厳原救難所)平間富美雄、角屋都喜夫、二宮昌彦、富村秀基、手束一二  
 (厳原救難所佐須奈救難支所)根ノ忠美 (厳原救難所豆酸救難支所)桐谷亀代見、本石敬二  
 (美津島町西海救難所)阿比留和秀、吉野正幸  
 (美津島町救難所尾崎救難支所)藤 義臣、日下部孝喜、小嶋信之、西山義和  
 (美津島町救難所大船越救難支所)川上哲雄、多良浪雄、大部陽一、川内保弘、大部初幸  
 (美津島町救難所三浦湾救難支所)小田豊彦、  
 (美津島町救難所鴨居瀬救難支所)岡野亮司 (美津島町救難所東海救難支所)小島修三  
 (豊玉町救難所)沖中重仁 (豊玉町救難所峰西部救難支所)早田岩雄、扇 芳信、山崎敏美、早田展雄、島居賢二、島居市郎、  
 山崎重幸、早田晃裕 (豊玉町救難所綱島救難支所)大庭 儀、川上 寿、吉田美弘、橋本博利  
 (箱崎救難所)西 寛、馬渡弘視 (上県救難所)部原政夫、上野正人、上野和彦  
 (上県救難所佐須奈救難支所)庄司勝身、阿比留良武、梅野政美、大石敏光、山口芳雄、小崎護祐、内山 勝  
 (上対馬救難所)犬末幹彦、宇津井千可志、比田勝安之、泉谷数哉、向井登志一  
 (上対馬救難所上対馬南救難支所)小田 満、鍵本 悟、古藤 薫、篠田格衛門、古藤治幸、西河正和、糸瀬光幸、  
 古藤勝義、古藤正春、古藤繁實、橘 照吉、松本光義、原田嘉雅、山本勝芳、神田満男、山崎 貢、山崎清作、中岡廣明  
 (石田救難所)野元富之 (三重救難所)宮本昭和、緒方修一、山下光春、橋本竹光、住吉利幸  
 (小菅救難所)松尾 宏、杉本義孝、前田忠文、野間俊夫、山口千尋、上田国広、早瀬 進  
 (毛井首救難所)中熊富吉、小川 孚、兵働秀仁、林 穂、池田哲也、荒井 剛、小川澄人、松本秀雄、中村哲士、山下 誠、  
 野中勝喜 (郷ノ浦救難所)大島喜孝、立石誠也、大島 勇 (川原救難所)桑宮一善、桑崎徳男、森山佳幸、野川 洋、  
 松浦直馬、城野源博、今井利則、大江峰継、峰 正男、浦田次男、山田 稔、山下勝利、汐碓輝男  
 (野母崎救難所)濱田泰明、濱田時彦、江上作郎、川原正信、山田 実、山口徳男、西山憲典、山瀬賢次

**(3)退職職員の永年従事功労表彰(38名)**

○北海道海難防止・水難救済センター(9名)  
 (浜中町救難所琵琶瀬支所)三浦市三 (浜中町救難所貴人支所)堀江辰雄  
 (上ノ国救難所)市山亮悦 (浜厚真救難所)安藤芳夫 (根室救難所)臼田健二、岡 良一  
 (厚岸救難所)鈴木 豊、川端勝也 (苫小牧救難所)長崎光一

○茨城県水難救済会(1名)  
 (久慈支部救難所)袴塚恵次

○千葉県水難救済会 (5名)  
 (鴨川救難所)岡崎清一、武田洋一郎、山田清志、熊谷 実、花澤正敏

○新潟県水難救済会(15名)  
 (岩船港救難所)上村喜吉、和田富雄、浜地庄栄、佐藤 優、浜地一春  
 (両津救難所)伊藤安令、佐藤正義、水口健一、稲垣満夫、忠平健市  
 (出雲崎救難所)磯野清春 (新潟救難所)當摩栄一、筒井正治 (佐渡南部救難所)岡崎正幸  
 (佐渡南部救難所赤泊支所)山形喜八

○福岡県水難救済会(8名)  
 (弘救難所)今泉廣和 (深江救難所)山内計治 (姫島救難所)森 和雄 (芥屋救難所)奥 功  
 (福吉救難所)梅本芳則 (大島救難所)中村真一 (鐘崎救難所)松本久人 (加布里救難所)古川芳治



退職職員の  
永年従事功労／有功章

**2 洋上救急功労者**

**(1)金色名誉有功表彰(1件)**

個人:1件  
 (出勤9回) 沖縄赤十字病院 医師 佐々木秀章

**(2)銀色名誉有功表彰(2件)**

団体:2件  
 (出勤11回)日本医科大学付属病院  
 (出勤10回)沖縄県立八重山病院



金色名誉有功盾



銀色名誉有功盾

**(3)金色有功表彰(6件)**

団体:1件  
 (出勤5回) 名古屋掖済会病院

個人:5件  
 (出勤3回) 浦添総合病院 医師 米盛輝武  
 日本医科大学付属病院 医師 山名英俊、医師 萩原令彦  
 米盛病院 医師 富岡譲二  
 名古屋掖済会病院 看護師 山田秀則



金色有功盾

**(4)永年勤続(8件)**

個人:20年勤続 1件  
 日本海西部地方支部 副支部長 宮下義重

個人:15年勤続 2件  
 日本海西部地区洋上救急支援協議会 副会長 岸 宏  
 沖縄地区洋上救急支援協議会 副会長 大仲良一

個人:10年勤続 5件  
 道東地方支部 支部長 金井関一  
 道南地区洋上救急支援協議会 会長 松居俊治  
 沖縄地区洋上救急支援協議会 会長 比嘉榮仁  
 道東地区洋上救急支援協議会 会長 金井関一  
 八戸市洋上救急支援協議会 会長 小林 眞



洋上救急センター支部役職員の永年従事功労／表彰状と有功章

**3 事業功労表彰**

**(1)事業功労**

団体:1件  
 島根県水難救済会 出雲救難所



事業功労有功盾

**(2)青い羽根募金**

①団体:59団体

若築建設株式会社九州支店、陸上自衛隊福岡駐屯地、航空自衛隊芦屋基地、宗像市役所、陸上自衛隊久留米駐屯地、航空自衛隊築城基地、株式会社湘南なぎさパーク、西日本旅客鉄道株式会社(2)、一般社団法人日本倶楽部、海上自衛隊佐世保所在部隊、一般社団法人日本港湾福利厚生協会、一般社団法人日本中小型造船工業会、一般社団法人日本自動車整備振興会連合会、大喜海運株式会社、三洋化成工業株式会社、かもめプロペラ株式会社、栗林商船株式会社、原燃輸送株式会社、新日本海フェリー株式会社、航空自衛隊三沢基地隊員一同、旭商船株式会社、有限会社モネール、千葉北部海洋少年団、白方漁業協同組合、三菱ケミカル株式会社坂出事業所、土庄町役場、陸上自衛隊旭川駐屯地、陸上自衛隊北千歳駐屯地、陸上自衛隊東千歳駐屯地、陸上自衛隊岩見沢駐屯地、陸上自衛隊国分駐屯地、陸上自衛隊岩手駐屯地、陸上自衛隊八戸駐屯地、陸上自衛隊島松駐屯地、陸上自衛隊久里浜駐屯地、陸上自衛隊富士駐屯地隊員一同、陸上自衛隊隊松本駐屯地、陸上自衛隊滝ヶ原駐屯地、陸上自衛隊板妻駐屯地、陸上自衛隊大村駐屯地隊員一同、海上自衛隊館山航空基地、航空自衛隊入間基地隊員一同、航空自衛隊十条基地、航空自衛隊奈良基地、航空自衛隊松島基地、鹿島建設株式会社、三光海運株式会社、株式会社港屋、SGホールディングス株式会社、千代田区海洋少年団、陸上自衛隊下志津駐屯地、陸上自衛隊練馬駐屯地司令、陸上自衛隊武山駐屯地、海上自衛隊横須賀地方総監部、藤沢海洋少年団、清水海洋少年団、若築建設株式会社、東洋建設株式会社

②個人:延べ16名

(注)団体名のあとの(2)とあるのは表彰回数が2回である。

お知らせ

## 「明治150年」関連施策への取り組みの推進について!

平成30年(2018年)は、明治元年(1868年)から起算して満150年に当たります。

明治以降、近代国民国家への第一歩を踏み出した日本は、多岐にわたる近代化への取組を行い、国の基本的な形を築き上げていきました。また、多くの若者や女性等が海外に留学して知識を吸収し、外国人から学んだ知識を活かしつつ、単なる西洋の真似ではない、日本の良さや伝統を活かした技術や文化も生み出されました。

一方で、昨今に目を向ければ、人口減少社会の到来や世界経済の不透明感の高まりなど激動の時代を迎え、近代化に向けた困難に直面していた明治期と重なっており、「明治150年」を節目として、改めて明治期を振り返り、将来につなげていくことは、意義のあることだと考えています。

こうした中、政府では、内閣官房副長官を議長とする「「明治150年」関連施策各府省連絡会議」を設け、政府一体となって「明治150年」関連施策を推進しているところです。

「明治150年」関連施策は、大きく3つの柱で推進しています。

一つ目は、「明治以降の歩みを次世代に遺す施策」です。

デジタルアーカイブ化の推進などにより、明治期の歴史的遺産や明治以降の歩みを未来に遺し、特に次世代を担う若者にこれからの日本を考えてもらう契機としようするものです。

二つ目は、「明治の精神に学び、さらに飛躍する国へ向けた施策」です。

例えば、明治期には様々な人物が各方面で活躍されてきましたが、時間とともにその記憶が薄れて、一部にしか知られていない方も多

いのではないのでしょうか。

「明治150年」を機に、これらを改めて知る機会を設け、明治期に生きた人々のよりどころとなった精神を捉えることにより、日本の技術や文化といった強みを再認識し、現代に活かすことで、日本の更なる発展を目指す基礎にしようとするものです。

三つ目は、「明治150年に向けた機運を高めていく施策」です。

内閣官房のホームページなどを通じて情報提供を行うほか、関連する施策や取組に広くお使いいただけるよう、平成29年8月にロゴマークを決定したところです。

「明治150年」関連施策は、明治維新の時期のみを対象とする取組ではありません。維新の時期も含め、明治期全般の様々な取組や人々の活躍などを対象としたものです。

今後とも、国だけでなく、地方公共団体や民間も含めて、日本各地で、「明治150年」に関連する多様な取組が推進されるよう、「明治150年」に向けた機運の醸成に努め、広報を中心とした支援を行ってまいります。



「明治150年」関連施策ロゴマーク

## ● 日本水難救済会 会員募集 ●

日本水難救済会では、会員(2号正会員または賛助会員)となって本会の事業を支援していただける方々を募集しています。

2号正会員は、本会の事業目的に賛同して、年会費1口(1口1万円)以上を納付され入会される個人又は団体の方で、正会員になりますと総会への出席など本会の事業に参画することができます。

賛助会員は、正会員以外であって、金品を寄附して本会の事業を賛助するため入会される個人又は団体の方で、ご寄附された方は、所得税・法人税の控除を受けられる特典があります。

### 会員への入会を希望される方へ

本会にご連絡いただければ入会申込書などをお送りいたします。また、本会ホームページの「会員登録／お問い合わせ」にて、必要事項を記入して本会にお申し込みください。

連絡先:公益社団法人日本水難救済会  
TEL 03-3222-8066 FAX 03-3222-8067  
<http://www.mrj.or.jp/index.html>

## 編集後記

☆2018年の干支は「戌(いぬ)」です。戌年の人はとても愛情が深く、表面的にはシャイなタイプなため、派手なことや社交的なことは好みません。自然と弱者を助けるため、周りの信頼を集め、リーダー的な存在に適しているそうです。一方でいい意味でも悪い意味でも「頑固」な人も多いのが戌年だとのことです。弱者をほっておけない頑固者は、海の男に多いような気がしますが、皆様の周りの戌年の方はどうですか。

☆MRJ互助会通信で報告させていただいたとおり、平成28年度の会計年度が終了しました。理事会では互助会の会員数が増えていない点についてご指摘があり、今後は救難所員それぞれに直接有効性が伝わる方法を検討することとしております。また、地方水難救済会によって加入率に偏りがあるので、加入率の低い地方水難救済会に互助会の利点をご理解いただくように働きかけていきたいと思っておりますので、宜しくお願いします。

☆「マリンレスキュー紀行」は、茨城県水難救済会の大洗支部救難所と久慈支部救難所取材させていただきました。ボランティア救助員が出動した海の事故の6割近くが、海水浴をはじめ、釣り、サーフィン等マリンレジャーを楽しむ一般市民に関係しており、ご当地は海を観光資源とし、マリンレジャーが盛んな場所であることから、益々の活躍が期待されます。

☆「レスキュー41～地方水難救済会の現状」は、鹿児島県水難救済会と特定非営利活動法人神奈川県水難救済会です。今回で七回目になりますが、全国で最も救難所員の数の多い鹿児島県水難救済会と毎年、厳寒の1月に水難救助訓練を実施している神奈川県水難救済会が情報を提供して下さいました。

(常務理事 菊井 大蔵)